

5 ペルー

1126

昭和13年1月22日
在ペルー藤村(信雄)臨時代理公使より
広田外務大臣宛

外国人移民入国・營業制限の緩和をめぐるペ

ルー政府との最近の交渉経緯報告

機密公第二八號

(2月24日接受)

昭和十三年一月二十二日

在祕露

臨時代理公使 藤村 信雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

最近ニ於ケル祕露向日本移民制限緩和交渉ニ關スル件
一、客年五月下旬祕露政府カ前年六月ノ外國人移住及營業制
限大統領令^{編註}ニ對スル細則ヲ發布シテ以來本官ハ今日ニ至
ル迄之ニ對スル抗議及改善交渉ヲ續ケ居ル處右移民問題
ニ關係シテハ當方カ條理ヲ盡シテ右細則發布前歸國者ノ
再渡航ノ自由及ヒ右移民細則ニヨル新渡航者ノ移入ヲ主
張シタルニ拘ラス(其他種々細カキ要求アルモ茲ニ縷述

セス)先方ハ客年十月下旬ニ至ル迄一向諒解ノ態度ヲ示
サス右細則カ發布セラレタルニ拘ラス其ノ實施ニ付方法
ヲ知ラサルカ熱意ノ無之カ全ク茫漠不誠意ノ態度ヲ維持
シ居リ(此間當方ノ交渉相手ハ大統領令當ノ責任者タル
「ウヨア」氏ハ言ヲ左右ニ托シテ本官トノ面會ヲ避け又
海外ニ時々出張シ居リ又時ノ「デ、ラ、フエンテ」外相
カ全ク問題ニナラサリシニ付右ハ外務次官「ベイード」
氏ヲ主トス)漸ク右十月下旬ニ至リ既ニ御承知ノ通初メ
テ當時日本出帆ノ平洋丸ニ右細則以前歸國者中僅カ十名
ノモノノミ再渡航ヲ許可シタル譯ナリ
而シテ當時先方(次官)ハ規則上日本ノ移民ヲ入ルルコト
ハ宜シトスルモ一時ニ大量移民ハ社會ノ注意ヲ惹キ又々
排日氣分ヲ煽ルニ付當分兎ニ角其數ヲ制限シ度シトシテ
當方カ再渡航者ノ五十名許可ヲ要請シ來リタルニ對シ右
ノ通僅カ十名ヲ與ヘタル次第ニシテ同次官當時ノ約束ハ
次回ノ船ヨリ右許可數ヲ漸増スヘク又新渡航者モ追々許

可スヘシト云フコトニ有之タル處十月末外務大臣ノ更迭アリテ一時右ハ司法大臣ノ兼任トナリ次テ十一月「コンチャ」氏正式ニ之ニ就任スルアリ其間右交渉モ一向二抄ラサリシ譯ナルカ十二月初旬ヨリ

二、本官「コンチャ」大臣ニ面會更ニ移民問題等ニ付懇談シ移民ニ付テハ前述通細則發布前歸國者ノ再渡航自由ト細則ニヨル新渡航者ノ移入ノ自由(細則ニヨリ規定セラルル新渡航可能者數)即チ細則發布後祕露ヨリ日本へ再渡航ノ意思無ク決定的ニ歸國セルモノノ數ハ當時既ニ約百名ニ達シ居リタリ)ヲ要求シタルニ同大臣ハ當初一應當方ノ要求ハ合理的ト覺シキニ付更ニ研究シタル上回答スヘシト爲シ次テ十二月中旬ニハ結局次官ノ所説ノ通政府トシテハ日祕ノ親善増進ヲ常ニ念頭ニ置キ又日本ノ移民ニ關スル日本ノ所説ハ妥當ト考ヘ且日本ハ細則ニヨリ新渡航者ヲ移入スヘキ權利アルコトハ認ムルモ何分民間ニハ排日氣分相當強キヲ以テ若シ日本ヨリ相當數ノ移民同時ニ「カイヤオ」港ニ上陸スル時ハ直チニ祕露社會ノ注意ヲ惹キ祕露政府カ非難攻撃セラルルコトトナルノミナラス萬一此ノ如キ排日者流ト日本人トノ間ニ事件テモ

起ル事アラハ一大事ナルヲ以テ祕露ハ一日日本側ノ諒解ト協力ヲ得テ暫ク日本ヨリノ每船渡來ノ移民數ヲ出來得ル限り制限スルコトトシ其代リ日本人ハ日本船ニヨリ巴奈馬迄來リ同地ヨリ外國船ニテモ乗換ヘ目立タヌ様少數宛祕露ニ到着スルカ如キ方法ヲ執ラレ度シト途徹徹モ無キコトヲ申述ヘ(本官ハ右ニ對シ日本人ハ巴奈馬乗換ニヨリ密入國ノ如キ氣持ニテ祕露ニ渡來スルコトヲ得スト應酬シ置キ其後外相及次官ニハ每度祕露民衆ハ彼等ノ考フルカ如ク此ク排日的ニ非スト述ヘ最近コノ點ニ關スル談合頻繁ナリ)結局當方屢次ノ交渉ニモ拘ラス十二月末外相ハ結局前例ニ從ヒ當時日本出帆ノ墨洋丸ニヨル第二回分トシテ細則前歸國ノ再渡航許可數ヲ再ヒ十名ニ限ルトナシ之ニ當方申出ニヨリ其ノ同伴スル新渡航者タル妻ノ入國ヲ別ニ何等ノ制限無ク許可スルコトトセル次第ナリ三、其後本官ハ本年ニ入リテモ同大臣等ト同様ノ交渉ヲ續ケ居ル次第ナルカ先方ハ大臣次官トモ同様ノ言辭ヲ述ヘ今回一月二十五日樂洋丸出帆ニ當リ更ニ第三回分トシテ同船ニ對シ更ニ少クトモ十名ノ細則前歸國者再渡航許可ヲ交渉シタルニ大臣ハ同船ニハ前回許可ヲ受ケタルモノニ

シテ十二月ノ墨洋丸ニ乗組ミ得サリシモノ有之(其數ハ貴電ノ通九名又之ニ新渡航ノ被同伴妻アルコトハ先方ニテモ承知シ居リタリ)且此上ニ里馬小學校教員六名及其ノ家族(竝ニ其他當館申出ノモノニ名ニ領事館ヨリ報告ス)等ノ入國ヲモ許可スル事トナリシニ付右ニテ一船約三十名トモナリ一般ニ對シテハ日本人カ一船ニテ大量移住スルカ如キ印象ヲ與フコトヲ慮ルトナシ今回ハ之以上入國ヲ許シ得スト固守シタル譯ナリ第三回分トシテ一月末ノ樂洋丸ニ對シ更ニ細則前歸國者ノ再渡航許可ヲ取得サリシ次第ハ右ノ通ニ付右御諒解相成度右第三回分トシテハ更ニ次回ノ船ニ相當數ヲ取付方努力致度シ

四、此ノ如クニシテ祕露側ニ於テハ現在迄前記ノ如キ理由ニテ細則前歸國者ノ再渡航ノ自由ヲ許サス又細則ノ出入國同數ノ原則モ無視シ居ル次第ニシテ事實上右細則モ未タ實行サレ居ラサル如キ有様ナリ

而シテ本官カ外相ヤ次官ト談合ノ際先方ハ前述ノ如ク民間ニ於ケル排日氣分ヲ云々シ移民制限ノ口實トシ居ルカ右ハ又色々ニ觀察スルニ單ニ自分等ノ日本移民排斥思想ヲ「カモフラージ」シ又ハ責任回避ノミヲ行ヒ居ルモ

ノトモ考ヘラレス事實上當國政府ノ幹部官吏カ新聞ノ記事等ヲ極端ニ氣ニ掛ケ其ノ輿論ト思ハルモノヲ甚々重要視スルコトハ事實ニシテ自己カ政府部内ノモノノ責任トシテ不當ナル輿論ヲ抑ヘ又ハ之ヲ善導スルカ如キ責任感ヲ有シ居ラサルコトヲ考フレハ或ハ彼等ハ眞ニ日本移民カ當國ニ目立ツテ入國スル時ハ民間ノ排日思想ノ強キ實際日祕人間ニ事件テモ起ルモノト考ヘ居ルモノトモ存セラル依テ當方トシテハ移民増加ノ爲ニハ是非トモ之等政府要人ニ對シテ民間ノ排日思想ハ此ク強キモノニ非スシテ其ノ心配ハ杞憂ニ過キササルコトヲ何トカシテ實證シ之ヲ安心セシムル必要アル次第ニシテ當方トシテハ現在兎ニ角右細則ノ出入國同數ノ原則ヲ確立スルコトトシ其ノ爲夙ニ先方ニ對シ毎月政府ヨリ新聞紙上ニ外國人ノ出入國統計ヲ發表シ之ニヨリ國民ヲシテ在祕日本人ノ實數ハ増加シ居ラサルコトヲ納得セシムルコトトシタシト要請シ又民間ニ對シテハ各種ノ新聞工作ヲ行ヒ又日本人會又ハ營業團體等ヲ激勵鞭達シテ這間^維ニ日祕ノ親善空氣ヲ濃化セムト努力シ居ル次第ナリ

右報告申進ス

編注 本大統領令に關しては、『日本外交文書』昭和期Ⅱ第

二部第五卷第231文書以下を參照。

~~~~~

1127

昭和13年3月21日

在ベルー藤村臨時代理公使より  
広田外務大臣宛

ベルー政府が汎米會議に提議する可能性がある  
外国人移民第二世の国籍問題に關し意見具申

機密公第七二號

(4月18日接受)

昭和十三年三月二十一日

在祕露

臨時代理公使 藤村 信雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

汎米會議ト在外日本人第二世国籍問題ニ關スル件

一、一九三六年末ブエノス・アイレス市ニ開催ノ汎米平和會議ニ於テ祕露國カ外國移民第二世ニ對スル国籍附與及其ノ職業ノ制限ニ關スル條約締結方ヲ提議シ同會議ニテ右議案カ本年末里馬市ニ開催セラルヘキ同會議ニ持越サルルコトナリタルコトハ既ニ御承知ノ通ナル處右国籍問題

ハ當國ノ如ク日本人第二世ノ多數(現在男女合計約一萬人ニシテ其内約九割ハ滿十五歳以下ノモノト推算セラル)存在スル國ニ於テハ日本ニ執リ重大問題ニシテ「ブ」市ニ於テハ右ハ前記ノ如ク一時其ノ決定ヲ見サリシモ右祕露ノ提案ノ動機ハ一九三六年六月末發布ノ其ノ外國移民及營業制限ニ關スル大統領令ト同シク日本人排斥ニアラルコトハ明瞭ニシテ(其ノ提案者モ亦同一人タル前外相ニシテ現外務省法律顧問タルアルベルト・ウヨア氏ナリ)其ノ提議者ウヨア氏ハ今尙當國外務省ニ於テ大ナル勢力ヲ有シ居ルヲ以テ來ルヘキ里馬會議ニ於テハ祕露ハ再ヒ右案ヲ出シ來ルヘキモノト豫期セラルル次第ナリ

二、依ツテ本官ハ今年初以來當國外相コンチヤ氏ニ對シ里馬會議ニ於テ祕露カ再ヒ右ノ如キ案ヲ提議スルコトハ祕露ニ於ケル日本人第二世ノ將來ニ對シ甚大ナル影響ヲ與フヘキヲ以テ右ニ對シテハ慎重平衡ナル考慮ヲ爲サレ度申込ミ居ル處外相ハ當初右ハウヨアノ案ナリトテ自分ニハ別ノ考ヘアルカ如キ態度ヲ見セ居リシカ祕露側ニ於テハ今日漸次右會議ニ對スル準備ヲ進メ居リ其ノ提案事項ニモ右国籍問題ヲ考慮シ居ルコト確ナリト認メラル(外務

局長ベドヤ氏カ三月中旬本官ニ語ル處ニヨレハ外務省ニテハリ馬會議ニ對シ同局長ヲ事務總長トシ各種事務ノ準備ヲ行ヒツツアル處祕露側ハ「フエノス」會議ヨリ持越ノ其ノ議案ヲ踏襲スヘクウヨアカ其ノ主任ナリト語レリ

三、然ルニ右在祕日本人第二世ノ國籍問題ハ今日祕露ニ於テ本邦移民ヲ制限シ居ル際差當リ現ニ日本ニ渡來セル第二世ノ祕露歸國問題ト重大ナル關係アリ特ニ注意ヲ要スル處ニ月初ヨリ外務次官ベイド氏ハ本官ニ對シ突然左ノ如キ談話ヲ爲シ又其後外相モ口ヲ揃ヘテ同様ノコトヲ語ルニ至レリ(之亦ウヨアノ言出シタル事ニ非スヤト考ヘラル)

「最近日本人第二世ニテ教育ノ爲日本へ渡航スルモノノ數相當有之模様ナルカ彼等カ當國ニ留マル限リ假令日本人小學校ニテ日本語教育ヲ受クルモ祕露ノ社會的環境ノ感化ハ偉大ナルヲ以テ其雰圍氣ノ間ニ於テハ之等第二世ハ次第二祕露化セラルルニ至ルヘク彼等ハ名實共ニ祕露人トナルヘシ然レトモ右ノ如キ第二世カ當地ノ日本人小學校ヲ終リ幼年ニシテ日本ニ赴キ五年十年ノ間日本式愛國教育ヲ受クル時ハ結局祕露ノコトハ忘

レ純然タル日本人トナルヘキコト明カナリ故ニ彼等ハ法律上又ハ形式上ハ祕露人ナリトスルモ其ノ精神ハ事實上日本人ニシテ之ヲ祕露人ナリト云フハ一種ノ假説ニ過キス

自分等ハ日本人ノ父兄カ子弟ノ教育ニ當リ祕露ニ於テモ之ヲ行ヒ得ルニ拘ラス特ニ多額ノ費用ヲ使ヒ之ヲ日本迄教育ノ爲ニ送り返スコトヲ理解シ得サルモノニシテ斯クシテ此ノ第二世ノ國籍問題ハ今後一層ノ研究ヲ要スヘシ」

彼等ハ右ノ如キ言説ヲ爲シ最近ニ至リ現ニ本官ヨリ非公式ノ建前ニテ交渉シ居ル一人ノ在本邦第二世ノ祕露歸來ニ關スル許可請願ニ付拒否ノ態度ヲ執リツツアル次第ナリ(右第二世ハ日本人ヲ父トシ祕露人ヲ母トシテ一九二〇年祕露ニ出生祕露官憲ニモ當時其ノ旨届出テ其ノ出生證明ヲ有シ居ル者ナルカ幼時日本ニ送ラレ十數年間日本ニテ教育ヲ受ケタル後今日其ノ父カソノ呼寄ヲ爲サムトシ居ルモノニシテ本人ハ在本邦祕露領事ニ請願シテ歸國旅券ノ下附ヲ得ムトセルモ其ノ許可ヲ得ス仍テ其ノ父ヨリ請願アリタルニ付本官ヨリ當國外務省ニ交渉シ居ルモ

ノナルカ同省モ亦前記ノ如ク其ノ發給ヲ拒否シ居ルモノナリ尙本人ハ出生當時其ノ父ニ於テ當地帝國領事館ニハ其ノ届出ヲ爲シ居ラサリシモ日本原籍地ニ於テ入籍セシメ居レリトノコトナリ本官ハ右入籍ノコトハ祕露側ニ話シ居ラス)

四、右ノ如ク外國人ノ子ニシテ祕露ニ出生シ祕露國籍ヲ附與セラレタルモノモ幼時ヨリ外國ニテ教育セラレタルモノハ祕露國籍ヲ喪失スト云フカ如キ觀念ハ右國籍附與ニ關スル祕露憲法ノ規定ニ反スルノミナラス其他複雑セル問題ヲ隨伴シ假令祕露力之ヲ里馬會議ニ提出スルモ又々諸外國ヨリノ反對ヲ受クヘキコトハ明カナリト存セラルルモノ右ノ如キ觀念ハ今日祕露力其ノ所謂國家主義ヨリ外國人ノ祕露同化(其ノ同化力ニ關スル祕露自身ノ社會環境及國力ノ如何ハ別トシ)ノ希望ヲ有シ居ル點ヨリ見レハ極メテ自然ノ事ト存セラレ且其ノ動機ニ於テ日本人第二世ノ問題ヲ目標トシ居ル點ヨリスレハ(獨逸人第二世ノコトモ相當考慮シ居ル模様ナルカ右ハ勿論日本人ノ如ク多數ニ非ス)祕露ハ現在往々其ノ憲法迄モ無視スルコト平氣ニシテ又諸外國ノ反對モ押切り(ブエノス會議ニ於

テ祕露代表ウヨアハ本國籍問題ニ關シ祕露ハ外國トノ協定ニ達セサルトキハ自國一國ニテモ獨自ノ立法ヲ爲ス用意アリト言明セルコトハ御承知ノ通ナリ)排日方針一本鎗ニテ之ヲ何等カノ形式ニ於テ實行スルコト有之ヘシト虞レラルル次第ナリ

五、茲ニ於テ本官ハ祕露側ノ右ノ如キ議論ニ對シテハ大要左記ノ如キ意見ヲ述ヘ其ノ反省ヲ促スト共ニ此ノ國籍問題ハ中々複雑セルモノニ付更ニ充分當方ニテモ研究シ置クヘシト述ヘ居ル次第ナリ

「祕露出生ノ日本人第二世ハ其ノ憲法ニヨリ祕露國籍ヲ有シ居ルコトハ明カナルカ彼等ノ父母モ現今ハ祕露永住ノ決心ヲ有スルモノ多ク凡テ其ノ子女ノ爲祕露國籍ノ享有ヲ希望シ居レリ而シテ貴方所說ノ如ク彼等第二世ハ日本人小學校ニテ教育ヲ受クルモ環境ノ影響ヲ受ケ甚タ祕露化シ居ルコトハ事實ニシテ又其ノ教育モ彼等第二世ハ將來善良有能ナル祕露市民トシテ祕露ノ爲ニ奉公セシムヘシテフコトヲ其ノ方針ト爲セリ  
然ルニ一方最近十三四歳ニシテ當國ニ於ケル日本人小學校ヲ終リ日本ニ上級教育ヲ受クル爲歸國スル兒童モ

相當有之處彼等カ日本ニ歸リ五年十年ト其ノ教育ヲ受ケレハ貴見ノ通精神のニ日本人ト同様トナルコトハ事實ナルヘシ然ルニ日本ノ教育ハ兒童ニ對シ正直勤勉勇氣正義ヲ愛スル精神等人格修養ノ點ニ主眼ヲ置クモノニシテ此ノ如キ徳性ハ祕露將來ノ進歩ノ爲ニモ重視スヘキモノナルコト當然ナルヲ以テ右ノ如キ第二世カ日本ニ於テ教育ヲ受ケ祕露ニ歸國シタル時ハ祕露公共ノ爲ニモ役立ツコト疑ヒ無ク又彼等モ其ノ滯日中ハ現ニ其ノ父母カ祕露ニ居リ又其ノ人間性トシテ其ノ生國ニ對シテハ大ナル愛着ヲ感シ居ル譯ナレハ彼等カ祕露ニ對シ常ニ愛情ヲ有シ居ルコトモ疑ナク現ニ滯日第二世ノ中ニハ日本ニ居ルヨリ祕露ニ歸リ度シト感シ居ルモノモ相當有之模様ナリ

又在留日本人社會ニ於テハ其ノ第二世ハ現下其ノ約九割ハ十五歳以下ニシテ彼等ノ大部分ハ今日漸ク中等教育ヲ受クル時代ニ入りツツアリ從テ其ノ中等教育ハ父兄ニ執リ一ノ新シキ問題ニシテ今日父兄ノ一部ニテハ右問題解決ノ爲其ノ子女ノ爲ニ日本ニ於ケル中等教育ヲ希望シ居ルモノ有之次第ナルカ右ノ如ク日本ニ行ク

子女ハ全體ノ内少數ニ過キスシテ大部分ハ祕露ニ留マリ其ノ上級學校ニモ入學シツツアル譯ニシテ又今日在留日本人指導者ノ間ニ於テモ在祕第二世ノ教育ハ少クトモ中學校迄ハ祕露ニ於テ之ヲ受ケシムルコト全テノ見地ヨリシテ可ナリトノ意見強ク之ニ關聯シ日本人社會ニ於テモ其ノ子女ノ爲中學校ヲ建設シ又之ヲ廣ク祕露人ノ子女ニモ開放シテ日祕共榮ノ學園ト爲スヘシトノ議アリ右ハ當地ニ於ケル伊太利學校カ祕露ノ爲ニ有益ナル事業ト認メラルルト同様日祕間ニ於テ甚タ有益ナル事業ナルヘシ

要スルニ在留日本人ノ第二世教育ニ關スル考ヘハ右ノ如クニシテ祕露ノ利益モ充分考ヘ居ル次第第二世ノ國籍問題ニ付テモ之ヲ充分考慮シ何等罪ナキ第二世ノ將來ニ甚大ナル影響ヲ及ホス如キ措置ヲ執ラレサル様希望ス

六、在祕日本人ノ第二世カ祕露國籍ヲ保持スルコトハ既ニ帝國ノ法令ニヨリ其ノ自由トナリ居ルト共ニ當國ニハ夙ニ日本人ニ重大ナル影響ヲ及ホシ居ル各種事業ニ於ケル祕人使用人ハ割雇傭強制令アリ又今日ハ移民及營業制限令

アルニ鑑ミ彼等第二世カ將來當國ニ於テ活動スル爲ニハ是非トモ祕露國籍ヲ保持シ居ルコト必要ト認メラレ又差當リ右ノ如ク日本留學ニ赴ク子女ノ祕露歸國ニ當リテハ今日移民制限ノ嚴重ナル際是非トモ之ヲ確保スル要アル處祕露側カ今日コノ國籍問題ニ關シ右ノ如キ思想迄モ有シ居ルコトハ將來コノ國籍問題ニ隨伴シテ起ルヘキ第二世ノ營業權其他ニ付重大問題ヲ惹起スルニ至ルヘキコトヲ豫想セシメ此際何トカ早ク之ヲ好都合ニ解決スルコト是非トモ必要ト認メラル

依ツテ當方トシテハ右ニ關シ今後共祕露側ノ眞意ヲ充分探究シテ無理ナルコトヲ爲サシメス又汎米會議ニ當リテモ排日動議ニ出テサル様極力努力致スヘキ處右ハ南北米全般ニ於ケル日本人第二世ノ將來ニ非常ナル關係ヲ有スル問題ニ付此際汎米諸國ニ於ケル帝國在外公館ニ於テモ夫々情報ノ蒐集及對策上協力セラレ若シ之カ里馬會議ニ提案セラルル時ハ各國ヲシテ充分祕露ヲ反省セシムル様致度キ次第ニシテ殊ニブエノス會議ニ於テ右國籍ニ關スル祕露案審議セラルルヤコロンビア及智利兩國ハ祕露側ニ加擔シタルニ付右兩國ニ於ケル帝國公使館ニ於レテハ

一層ノ御注意ヲ拂ハルル様致度右ニ關シ本省ニ於レテモ色々御意見有之ト存スルニ付當方其他ニ對シ此際至急何分ノ義御指示相成様致度

此段報告旁々稟請申進ス

本信寫送付先 在米伯各大使、在亞智哥墨キューバ各公使、在巴奈馬領事

1128

昭和13年4月23日

在ベルー藤村臨時代理公使より  
広田外務大臣宛(電報)

店舗讓渡の自由をめぐるペルー当局との交渉

停滞について

付記

昭和十二年六月十九日発在ベルー藤村臨時代理公使より広田外務大臣宛電報第三八号

邦人營業制限の緩和方法を研究するとのペルー

大統領回答について

リマ 4月23日後発

本省 4月24日後着

第三三號

(一)<sup>1)</sup>客年往電第五四號以來店舗自由讓渡方交渉ヲ繼續セルニ

先方ハ民衆間ニ排日空氣アル際日本ノ要求ヲ容ルル時ハ社會ノ非難ヲ蒙リ内政上困難ヲ生ストテ難色アリタルニ付一月中旬外相ニ對シ店舗讓渡モ小作權同様祕露人優先ヲ條件トスヘシトノ試案ヲ提示一方里馬市役所ニモ運動シ同市財政上ノ立場ヨリ外務大臣ニ同様要求セシメタル處二月末殆ト之ニテ解決ノ見込付キタルニ三月ニ至リ逆轉四月六日覺書ニテ祕露ハ大統領令實行ノ強キ決意ヲ有スル旨通告シ來レリ

(二)依テ二十日外相ニ會見客年往電第三八號大統領ノ言質ヲ楯トシ強硬ナル談判ニ及ヒタルニ先方モ讓ラス交渉停頓ス先方硬化ニハ外務大臣カ「ウヨア」ニ氣兼シ

「ウヨア」亦之ニ不利ノ進言ヲ爲シ居ルコト及右内政上ノ理由モアル外外相カ日本ハ支那事變ノ爲南米ニハ重壓ヲ加ヘ得サルノミカ最近北米指導ニ依リ汎米團結及「モンロウ」主義禮讚ノ氣分旺盛ニ付此ノ際日本權益ヲ制限シテモ大問題トハナラスト「リスタク」シ居ルニ依ルモノト認メラル

(三)本官ハ尙強硬抗議ヲ繼續スヘキ處一方里馬市役所等ニテハ最近日本人商人ニモ營業鑑札下付上多少ノ便宜ヲ供シ

居リ右交渉ノ停頓ハ直ニ其ノ權益ニ大影響ヲ及ホス惧ハ無之模様ナリ

右ニ關シ御訓令ノ次第アラハ至急御回電請フ

(付記)

リマ 6月19日後發  
本省 6月20日後着

第三八號

往電第三七號ニ關シ

十八日大統領ニ謁見營業讓渡自由ニ付當方主張ヲ力說セルニ對シ回答大要左ノ通

祕露ハ既ニ移民及農業ニ關シ日本ノ要求ヲ容レタルヲ以テ今日直ニ商業上迄讓歩スルコトハ大統領令ノ手前竝ニ排日の民衆統制上困難ナルカ自分ハ常ニ日祕親善ヲ希望スルモノ故右法令トハ離レ何等カノ緩和和方法(フオルミユラ)發見ニ努力スヘク「ウヨア」既國後(論)同氏ハ現在北米ニ出張中本月末歸祕ノ筈ヲ研究セシムヘシ尙日本側ニ於テモ祕露民衆ノ排日氣分一掃上此ノ際少數ノ日本人商店ノ利害問題ヲ棄テ日祕親善ノ爲善處ヲ請フ

三、右謁見ハ細則公布後ノ當方抗議竝ニ駐日武官タリシ「デ・ラ・バラ」法相ノ斡旋ニ依リ實現セルモノナルカ大統領ハ同法相及其ノ他ノ側近者ヘモ同趣旨ノ談話ヲ爲セル趣ナルカ本件ハ今暫ク自重シテ交渉ヲ續行スルコトト致度シ

1129

昭和13年5月14日  
在ベルー藤村臨時代理公使宛

在ベルー外国人移民の第二世国籍問題に関する対処振りおよび同問題の汎米会議への上程阻止に向けた工作方訓令

米二機密第一八號

昭和拾參年五月拾四日

外務大臣 廣田 弘毅

在祕露 臨時代理公使 藤村 信雄殿

汎米會議ト第二世国籍問題ニ關スル件

本件ニ關シ三月二十一日附機公第七二號ヲ以テ御申越ノ次第有之祕露國籍ヲ保有スルニ不拘父母ノ人種ニ依リ之カ當然ノ權益ヲ制限セントスルカ如キハ人種的差別待遇ノ最モ

甚シキモノニシテ主義上ノ點ヨリスルモ到底受諾シ得サル所ナルト共ニ實際問題トシテ見ルモ斯ノ如キ權益ノ侵害ハ日系第二世ノ將來ニ對シ重大ナル障礙ヲ來ス處大ナルコト御來示ノ通りニテ又若シスル先例ヲ樹立セラレ右カ中南米諸國ニ傳波サルル事トモナラハ當然此等地方ノ一般在留民ノ發展ニ對シ深甚ナル暗影ヲ投スルモノナルニ付我方トシテハ出來得ル限り此種措置ヲ打破スルヲ要スル次第ナリ乍併本件ニ對シ主義上ノ立場ノミヨリ反對ヲ唱フルニ於テハ却テ排日者流ニ口實ヲ與ヘ先方ヲ硬化セシムルノ虞アルニ付テハ其ノ取扱振り頗ル機微ヲ要スルコトハ申迄モ無之處之カ工作振りニ關シ不取敢左ノ方法ヲ以テ進ミ度シ

(一) 差當り先方ハ第二世ノ本邦留學ヲ基礎トシスル僻論ヲ唱ヘ居ル様認メラルルニ付テハ貴信(五)ノ主旨ヲ以テ之ニ對抗反駁セラルルコト機宜ヲ得タル措置ト被存ル又修學ノ目的ヲ以テ歸國セル第二世數ハ實際左迄大ナラサルニ先方ニハ往々誇大ニ傳ヘラルル傾向アルヤニ被認ルニ就テハ出來得レハ此等ニ關スル統計等ヲ示シ先方ノ杞憂ヲ解消セシムル様致度キ處最近兩三年ニ於ケル第二世歸國者ノ實數(概算ニテ可ナリ)御調相成右カ果シテ少數ナルニ

於テハ説明材料トシテ適宜御利用相成度シ尙右實數ハ當方ニモ通報アリタシ

(二) 第二世幼年ノ本邦留學ハ優秀ナル第二世ヲ仕立上ケル主旨ニ依ルモノナル限り何等阻止スヘキ理由ナキモ一面ニ於テハ子弟ノ留學カ流行的の傾向ヲ帶ヒ漠然之ニ雷同スル向モアル哉ニ聞及フ處第二世ノ爲ニモ父兄ノ爲ニモ斯ル雷同の氣風ハ之ヲ抑壓スルコト望マシト認メラルルニ付今後ハ此種留學ハ相當ノ確信アリ且準備アル者ニ限り實行セシムル様可然御指導相成度尙斯ル本邦留學ハ一面ニ於テ祕國ニ於ケル中等教育機關ノ不備乃至ハ中等學校ノ本邦人入學ニ對スル直接間接ノ制限又ハ差別的待遇ニ歸因スル處モアル哉ニ被察ル處此ノ邊ノ事情及對策等ニ關シ御氣附ノ點御回報相成度シ

(三) 邦人學校問題ハ動モスレハ排日運動ノ種トナル事米及伯國ノ例ニ徴スルモ明ナルカ貴任國ニ於テハ幸ニシテ現在ノ處邦人學校ハ表面上大ナル問題ト爲リ居ラサル様被認ルモ既ニ第二世教育問題ニ付議論行ハレ居ルニモ鑑ミ在祕邦人學校問題モ持出サルルコト無キヲ保セス依而我方トシテハ出來得ル限り未然ニ本件カ問題ト爲ラサル様工

作シ置クコト肝要ニテ要スルニ邦人學校ハ結局ニ於テ優良ナル「ベルー」市民ヲ養成スル事ヲ目的トスルモノニシテ決シテ第二世不同化ノ因ヲ爲スモノニ非サル趣旨ヲ徹底セシメ置キ度ク但シ先方カ問題トシ居ラサル限り當方ヨリ進ンテ辯解カマシキ事ヲ申立ツルハ素ヨリ之ヲ避クルノ要アル事勿論ニテ此ノ邊ノ工作ハ御裁量ニ依リ時ニ應シ慎重御取計願度シ

又我方學校側ニ於テモ外部ヲ刺戟スルカ如キ措置方策ハ之ヲ避ケシムル事肝要ニテ特ニ祕露側ニ對シ邦人學校カ直接間接日本官憲ノ指揮ノ下ニ在ルカ如キ感ヲ與フル事ハ排日論者ニ對シヨキ口實ヲ與フル事トナリ最モ戒心ヲ要スル次第ナルニ付其ノ點ハ充分御留意相成度ク又右ニ關聯シ現在ノ邦人學校制度乃至補助金支出ノ形式等ニ付何等改善ヲ要スル處アル節ハ貴見御回示相成度シ

(四) 第二世問題解決ノ爲ニハ第二世自体カ進ンテ祕國人側ニ働キカケ對手方ニ對シ祕國人トシテ優良ナル事ヲ實際ニ感得セシメ以テ第二世又ハ第二世教育ニ對スル僻見ヲ是正スル事最モ有效ト被存ルニ付テハ貴方ニ於テモ内密ニ第二世ヲ指導シ祕國新聞界政界等トモ聯絡セシメ此ノ方

面ヨリ排日者流ヲ牽制セシムル様致度又「スポーツ」文  
化俱樂部組織等ハ第二世ト祕國青年間トノ親善ニ寄與ス  
ル事最モ大ナルヘキニ付斯ル措置ヲ助成シタク右趣旨ニ  
テ此ノ上共御盡力相成度シ

(五) 本件國籍問題カ來ル汎米會議ニ上程セラルルコト自体頗

ル面白カラサルニ付出來得ル限り之ヲ阻止シ度キ處若シ  
右ニ拘ハラズ會議ニ上程アル際ニハ極力之カ通過ヲ妨止  
スル要アリ就テハ會議參加國公館ニ對シテハ別添米二機  
密合第七六五號<sup>(編注)</sup>ノ通り申入レ置タルニ付右御含ミノ上貴

方ノ情勢等適宜此等公館ニ御通報相成リ相互聯絡ノ上可  
然御工作相成様致度シ特ニ貴信(三)御申越ノ如ク外務大臣  
及次官ニ於テ殊更貴官ニ對シ御來示ノ如キ言説ヲ爲シ居  
ルニ鑑ムルモ先方ニ於テハ本件國籍問題ニ關シ來ル汎米  
會議提出ノ爲(或ハ國內法トシテ發布ノ爲)相當纏リタル  
具体案ヲ有シ居ル哉トモ想察セラルルニ付此ノ點ニ付テ  
ハ充分御内探相成度シ

本信寫送付先 在米、伯、智、亞、墨、哥、キューバ  
大公使、サンパウロ總領事(總領事宛  
ノ分ニハ別添祕發機第七二號寫ヲ其ノ

儘添附ノ事)

編注 公信米二機密合第七六五号は本書第1130文書として採録

したため、別添は省略。

~~~~~

1130

昭和13年5月14日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使、在ブラジル沢田大使
他宛

ペルー政府が外国人移民第二世國籍問題を汎米
會議に提議する可能性を踏まえ対処振り訓令

米二機密合第七六五號

昭和拾參年五月拾四日

外務大臣 廣田 弘毅

在米國 特命全權大使 齋藤 博殿

在伯國 特命全權大使 澤田 節藏殿 (以下宛先省略)

汎米會議ト第二世國籍問題ニ關スル件

本件ニ關シ在祕藤村代理公使ヨリ三月二十一日附機公第七

二號ノ通り申越アリタルニ付別添米二機密第一八號ノ通り

回答シ置キタルカ本問題ニ關シテハ貴方ニ於テモ貴任國側

ノ意嚮御注意置キ相成リ又若シ本件カ來ル汎米會議ニ於テ

論議セラルルカ如キ氣配アルニ於テハ責任國代表ニ於テ斯ル祕露側提案ニ加擔スル事無キ様適當御工作相成度又責任國在住邦人子弟中修學ノ爲本邦ニ歸國スル者ノ數ハ伯國等ニ於テモ誇大ニ考ヘラレ勝チナル様認メラルルニ付大体ノ處ニテモ御取調ノ上適宜御利用相成様致度ク尙本件ニ關スル責任國ノ態度等參考ト爲ル事項ハ隨時當方竝ニ在祕公使、在參加國當該公館ニ御通報相成度シ

【編注一】 公信米ニ機密第一八号は本書第1129文書として採録した

ため、別添は省略。

二 本信宛先は、米國、ブラジル、アルゼンチン、チリ、コロンビア、メキシコ、キューバ、サンパウロの各在外公館長。

三 第八回汎米會議へのわが方対処方針については、本書第62文書参照。



1131

昭和13年10月25日
在ペルー北田公使より
近衛外務大臣宛（電報）

外国人移民第二世国籍問題の汎米會議上程は

影響が重大かつ広範である旨をペルー外相へ
注意喚起について

リマ 10月25日午後
本省 10月26日午前

第一二九號

米ニ機密第一八號貴信國籍問題ニ關シ

最近ニ於ケル當大陸全般ノ形勢モアルニ付廿四日外務大臣ニ面會ノ際其ノ後ノ經過ヲ質スト共ニ本件影響ノ重大廣汎ナルコトニ付説明日祕親交増進ノ爲當國政府ニ於テモ善處方篤ト申入レタル處同大臣ハ本件ハ從來ノ手續關係上十一月廿四日當地ニ専門委員會再開ノ砌リ伯刺西爾「フランク」議長ノ下ニ各委員研究ノ結果ヲ持寄り其ノ取扱方法ヲ決定スル段取トナリ居リ準備ノ内容ハ右會合前ニハ全然知り得サルモ貴意ノアル所ハ充分了承セリ
自分ノ見ル所ニテハ汎米會議ノ主題ハ恐ラク政治上ノ諸原則ニアルヘク本件ハ複雑ナル技術問題ニテモアリ主要題目トハナラサルヘキモ一方夫レ丈ケ専門家ノ意見カ通り易キ場合モアルヘク國交ヲ害セサル様慎重考量スルコトトスヘシト内話セリ依テ本使ヨリ更ニ右専門委員會ノ會合前後ニ

再ヒ懇談ヲ續ケ度キ旨告ケ置キタリ本件ニ付テハ専門委員殊ニ「フランコ」、「クルチヤガ」及米國委員等ニ對シテハ出發前然ルヘキ方法ニテ提案國祕露側ノ右態度ヲモ了解サセ善處方關係大公使ヨリ工作アル様致度シ

全米各大公使へ轉電セリ



1132

昭和13年11月2日 有田外務大臣より
在ペルー北田公使宛(電報)

日本人移民入国問題等に関するペルー訪日経
濟使節団との意見交換概要について

本省 11月2日後9時發

第九三號

使節團滯日中ノ動靜及通商審議會ノ結果ニ付テハ累次往電シタル處移民問題在留邦人待遇問題等ノ懸案事項ニ就テハ主トシテ「ベリード」次官トノ間ニ意見交換シタルカ先方ノ主張ハ大体ニ於テ從來貴地ニ於ケル交渉ノ際ノ云ヒ分ヲ繰返シタル程度ヲ出テス特ニ入國問題ニ就テハ當方ヨリ現在制度ハ甚タ窮屈ニ過クル點ヲ指摘シ之カ緩和方要望シタルニ對シ先方ハ再渡航者ヲ可成早く歸國セシムルコト妥當

ナルヲ認メ且祕國側トシテモ入國問題ノ解決ハ兩國間ノ蟻リヲ一掃スル爲頗ル望マシト認ムルモ只同國トシテハ少ク共當分ノ間之ノ上日本新移民ヲ容ルルノ余地ナキコトヲ強調シ不取敢

(一)日本政府ニ於テ今後新移民ヲ祕露ニ送ル意向ナキ旨ヲ自發的ニ聲明セラレ

(二)祕露側ハ之ニ對シ且下本邦ニ待期中ノ再渡航者(施行細則前ノ歸國者)ノ即時入國ヲ承認スルコトトシテハ如何

ト非公式ニ申出テ「シユライベル」公使モ同様ノ意見ヲ述べ居レリ

同國ハ現ニ極少數シカ本邦新移民ヲ入レ居ラサル實情ニ付入國ニ付相當程度先方ノ希望ニ合致スル様措置スル一方現在在留民ニ對シ今後壓迫策ヲ執ラシメサル様取計フコト一案ト存セララルモ我方トシテハ

(イ)ノ如キ聲明ハ對伯移民等ニ面白カラサル影響ヲ及ホス虞アルニ付先方ノ云ヒ分通りニハ取計難ク(尤モ我方トシテハ日本移民ヲ好マサル國ニ對シ無理強ニ之ヲ送致スル意嚮ナキ建前ヲ明ニシ話シ合ニ依リ事實上或ル程度先方ニ満足ヲ與フルノ余地アルヘシ)

(ロ)且又今後新移民カ絶對入國出來ヌコトナレハ在留民近親呼寄モ不可能トナルニ付除外例ヲ認メシムルノ要アリ
 (次官ハ近親呼寄ニ就テハ各個ノ場合ニ付豫メ祕國側ト協議スル等妥協ノ余地アル様仄メカシオレリ)

(ハ)森林地帯開發ノ爲ノ日祕問協力ニ付通商審議會ニ於テ意見交換ノ際使節團側ニ於テハ祕國法律關係ヲ理由トシ之ヲ決定事項中ニ記載スルヲ拒否シタルカ貴電第一二六號ノ次第モアリ開拓事業ノ爲ノ邦人入植ノ途ヲ塞カサル様取計フコト望マシカルヘク(例ヘバ施行細則第二章團体入國ヲ留保スル等)

旁々先方ノ申出ニ對シテハ非公式ノ會談ニ止メ當方トシテ深ク立入ルヲ避ケ置キタリ尤モ「シユライベル」公使ハ祕國トシテ何時迄モ現在ノ一船二十名制度ヲ繼續シ難キ事情アリト稱シ居リ現ニ往電第六九號ノ如キ申出ヲ爲シ來リシ次第モアリ我方トシテモ適當話シ合ヒツク限り入國問題タケニテモ片附クル事素ヨリ希望シ居ル次第ニ付現地事情モ照合シ本電ノ件御考究ノ上今後ノ方針ニ付御心附ノ點電報アリタシ

尙目下本邦ニテ待機中ノモノハ再渡航者二六〇名呼寄ニ依

ル妻子等一〇〇名ナリ

1133

昭和15年5月13日

在ベルー佐藤(舜)臨時代理公使より
 有田外務大臣宛(電報)

ベルー政府へ緊急措置方要請について

ベルー政府へ緊急措置方要請について
 リマ 5月13日後発
 本省 5月14日後着

第一二七號

十三日正午一部中學生里馬市邦人商社^(店)ニ投石ヲ始メタル處漸次一般民衆モ加ハリ破壊掠奪ヲ恣ニシ被害者多數ニ達スル見込ニテ目下殆ト全部閉店中ナルニ付外相ニ面會緊急措置ヲ要求シタルニ大統領ト相談ノ上今晚中ニ秩序回復ニ全力ヲ注クヘキ旨ヲ約シ且今般ノ事件ニ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表シタリ
 右排日運動ノ黒幕ニ關シテハ政府ハ目下調査中ナル趣ナルカ大臣ノ口吻ヨリ察スレハ「アブラ」ナルモノノ如ク又當方入手ノ情報ニ依レハ支那人モ煽動ニ加ハリ居ル形跡アリ
 内査中

右暴動ハ「カイヤオ」及「チンボテ」等ニモ波及セリ

1134 昭和15年5月14日
在ベルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

損害賠償権を留保の上ペルー政府へ嚴重抗議
方請訓

リマ 5月14日後発
本省 5月15日前着

第一三一號

今尙暴行繼續中ニテ被害調査ニ着手出來サルモ帝國政府ノ命ニ依リ嚴重抗議スルト共ニ損害賠償権ヲ留保スル旨祕露政府ニ申入レ差支ナキヤ御回電請フ
尙駐日祕露代理公使ヲシテ在留民保護ニ遺憾ナキヲ期スル様打電セシメラレタシ

1135 昭和15年5月15日
有田外務大臣より
在ベルー佐藤臨時代理公使宛(電報)

暴動を至急鎮圧するよう在本邦ペルー代理公
使へ要請について

第七一號(至急)

本省 5月15日後7時10分発

十五日午後祕露代理公使ノ來訪ヲ求メ累次貴電ニ依ル暴動ノ次第ヲ述ヘ事件ハ十三日正午ニ起リ十四日午後ニ至ルモ鎮壓ヲ見ルニ至ラサルハ解シ難キ處ニシテ不取敢在「ペルー」本邦代理公使ヨリ右ニ對スル抗議方貴國政府ニ申出ツル様訓令ヲ發シタルカ本大臣ハ萬餘ニ上ル在留民ノ安否ニ付キ深憂ヲ抱カサルヲ得ス至急暴動鎮壓竝ニ在留民保護ニ付キ最モ有效ナル措置ヲ採ララル様電報セラレ度シト要請シタルニ代理公使ハ右ヲ了承シ引取りタリ
伯ニ轉電アリタシ

1136 昭和15年5月15日
有田外務大臣より
在ベルー佐藤臨時代理公使宛(電報)

暴動事件に対しペルー政府へ嚴重抗議方請訓

本省 5月15日後7時10分發

第七二號(至急)
貴電第一三一號前段ニ關シ
直ニ帝國政府ノ名ニ於テ嚴重抗議セラレ度特ニ秩序アル國

家ニ於テ事件勃發後二十四時間ヲ經過スルモ未タニ暴動鎮
壓セラレサルハ帝國政府ノ極メテ遺憾トスル旨ヲ強調セラ
レ責任者ノ處罰要求ヲ留保セラレ度シ（損害賠償要求ハ當
然ノ事ナリ）尙一般在留邦人ニ對シテハ飽ク迄モ冷靜、沈
着事ニ處シ苟モ暴動ヲ刺戟スルカ如キ輕卒ナル行動ナキ様
充分徹底セシメラレ度シ
伯ニ轉電アリタシ



1137

昭和15年5月15日 有田外務大臣より
在ベルー佐藤臨時代理公使宛（電報）

暴動事件の動機および經過等に関する真相報

告方訓令

付記 昭和十五年五月十四日發在ベルー佐藤臨時代

理公使より有田外務大臣宛電報

暴動事件に関するベルー政府公表

本省 5月15日後8時30分發

第七三號

暴動ニ關スル十三日夕祕露政府ノ公表ニハ日本在留民ノ活
動及集團組織ニ言及シ又當地同國代理公使宛本國政府來電

ニハ古屋追放事件以來日本ハ祕露ニ對シ好戰の意圖アリト
ノ風説流布セラレ右カ事件ノ動機トナリタル旨報導シアル
由ナル處事件ノ動機及經過等ニ關スル真相忌憚ナク回電ア
リタシ

（付記）

リマ 5月14日後發
本省 5月15日前着

十三日夕刻祕露政府ハ自發的ニ左ノ通り公表セリ
日本在留民ノ或ル種活動ニ關シ祕露主權ト相容レサルカ如
キ武器及集團組織ノ存在アリトノ噂執拗ニ流布セラレタル
爲一般民ノ反動ヲ惹起シタル處地方局ハ前記噂ハ絕對虛偽
ニシテ明言出來サル目的ノ爲ニ社會秩序ニ反スル狀態ヲ生
セシメントスル惡意ノミニ依リテ生シタルモノナルコトヲ
宣言ス吾人ハ愛國の義務トシテ右噂ノ取消及流布ヲ防止シ
警察官憲ヲシテ強壓手段ニ訴フルノ必要ナキニ至ランコト
ヲ希望ス

編注 本電報は電報番号が欠落している。



昭和十五年五月十五日
在ベルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

わが方督促を受けて軍隊が出動し暴動はほぼ平

静に帰したが治安は完全回復していない旨報告

付記 昭和十五年六月、亜米利加局第二課作成

「里馬排日暴動ニヨル在留邦人ノ被害状況」

リマ 五月十五日後発

本省 五月十六日前着

第一三三號(至急)

往電第一三一號ニ關シ

- 一、當方再三二亘リ嚴重督促ノ結果漸ク昨夜里馬内外ニ軍隊出動シ爾來大體平靜ニ歸シタルカ邦人ニ對スル脅迫の言動絶エス未タ完全ナル治安ノ回復ハナシ又數百ノ掠奪ヲ蒙レル在留民婦女子ハ里馬日校ニ收容保護シ居レリ
- 二、地方ニ於テモ被害アリ又形勢不穩ノ趣ヲ傳ヘ來リ該地方ニ對シテハ直ニ對策方外務省ヲ通シ承諾セシメタリ

(付記)

昭和十五年六月

里馬排日暴動ニヨル在留邦人ノ被害状況

亞米利加局第二課

一、暴動經過

五月十三日正午、一部中學生ノ里馬邦人商店ニ投石セルニ端ヲ發シタ排日暴動ハ一般民衆モ之ニ加ハリ里馬市内及里馬市北方ノ「チンボテ」兩市ニ於テ無數ノ邦人商店、理髮店、及珈琲店ヲ襲ヒ、破壊、掠奪ヲ恣ニセル結果、被害ハ豫想外ニ大ナルモノアリ、併シテ帝國政府ニ於テハ在留邦人ノ保護、責任者處罰竝ニ今回ノ暴動ニヨル損害賠償ニ付祕露政府ニ嚴重ニ申入レタル結果先方モ賠償義務ヲ認メ四名ヨリナル被害調査委員會ヲ任命、目下被害調査中ナルモ累次ノ電報ヲ綜合スレバ被害状況大体左ノ如シ

一、死亡者 (罹世) 一名(沖繩縣人比嘉三良)

二、負傷者 十數名

三、被害家屋店舗

(イ)里馬及郊外ニ於ケル被害届出

件數五九八件(内全滅 (減カ) 三二一件)

被害額三六二萬五千「ソールレス」(内住所被害五三萬

九千「ソーレス」

(ロ)「カイヤオ」港

被害甚大ナルモ詳報未着

(ハ)「カニエテ」附近

掠奪三件アリタリ

四、被難民

- (イ)里馬日本人小學校ニ收容セルモノ約六百五十名、日本人會ニ於テ食料品、衣服等ヲ救護シタリ
- (ロ)郊外ニ於ケル被難民

日本人會ヨリ食糧品ヲ配給セリ

尙祕露政府ニ於テモ寢具、食糧ノ提供ヲ申出テ又其他必要品アラハ何ナリト申入レ度キ旨申越セル趣ナリ

五月二十九日里馬日本人小學校ニ收容中ノ沖繩縣人ハ九十三家族四百二十三名他縣人十五家族六十一名ナル趣ニシテ、暴動鎮定ト共ニ再起可能ノ者ハ夫々歸宅セリ

今回ノ被害者ノ大多數ハ日用雜貨店、小料理店、理髮店、及小作人等ノ中、小店舗ニシテ里馬市及郊外ニ於ケル被害者職業別百分比ハ左ノ通りナリ

日用雜貨	三九%
カフェ	一〇%
小作人	九%
洋食店	七%
理髮店	七%
其他	二八%

(里馬市附近ノ在留邦人ノ全投資額ハ約五千萬「ソーレス」ト概算スレハ其ノ七・四%ガ暴動ノ被害ヲ蒙レル譯ナリ)

此ニ對シ在留邦人中大店舗ヲ構ヘ居リシ者ハ殆ンド被害ナク在里馬商工協會會員中、五十四名ノ内、住居ノ掠奪セラレタルモノ二件、倉庫ノ荒サレタルモノ一件ニ過キス

從而卸商ニハ殆ト直接ノ被害ナキモ唯小賣掛金ニ於テ約五十萬「ソーレス」ノ損害ヲ蒙リ居レリ

編注 本書第140文書ノ編注參照。

昭和15年5月15日

在ペルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

暴動事件の真相は排日を口実に政変を狙つた

計画的事件との観測報告

リマ 5月15日後発

本省 5月16日前着

第二三三號(至急)

貴電第七三號ニ關シ(祕露暴動事件ノ真相ニ關スル件)

編註

一、往電第一三一號及「ラヂオ」等ニ依ル累次ノ政府公表ニ
モ拘ラス邦人カ多數ノ武器ヲ所有シ居レリトカ數萬ノ兵
沿岸地方ニ上陸セリトカノ荒唐無稽ノ「デマ」相當部分
ニ傳ヘラレ之カ爲學生労働者等ノ煽動意外ニ效果ヲ奏シ
タルノミナラス警察官憲等ノ行動モ不活潑ナリシ次第ニ
シテ當館ニ於テ「デマンテイ」ノ「コンムニケ」ヲ發ス
ルト共ニ當國政府側ヲシテ一層之カ徹底方取計ハシメツ
ツアリ

二、古屋問題ニ關シテハ大小新聞何レモ沈黙ヲ守リタルモ「ス
ポウツ」雜誌タル「ムンド、グラフィコ」及「ラ、クロイ
カ」(下層階級ヲ讀者トスル當地四大新聞ノ一)二七、八日

ニ亘リ本件ニ關シ事實無根ノ報道行ハレ殊ニ前記武器及
邦人ノ軍隊組織等ニ關シ悪性ノ「デマ」連載セラレタリ
三、右ニ關シ其ノ悪影響ヲ慮リ累次抗議シタルモ外務省側ハ
言論自由保護ノ法律ヲ楯トシテ當方要求ニ應セサリシ次
第ナリ

四、十五日日本品不買勧誘ノ「ピラ」ヲ撒キ又在本邦祕露領
事虐殺セラレタリトノ噂ノ流布ヲ爲シタル者アリ多數ノ
支那人ハ民衆ヲ煽動シ金錢ノ分配ヲ爲シタル趣ナリ

五、要スルニ「アプリスタ」其ノ他政府反對ノ政客反日分子
等カ排日ヲ口實ニ政府ヲ窮地ニ陥レ政變ヲ起サシメント
スル計畫的事件ナルカ如ク古屋送還問題ノ如キモノハ口
實ノ一部トシテ利用シタルニ止マルモノナリ

編 注 往電第一三一号は誤りで、本書第1137文書付記の電報を

指すものと思われる。

~~~~~

1140

昭和15年5月15日

在ペルー佐藤臨時代理公使より  
有田外務大臣宛(電報)

## ペルー外相へ暴動事件を嚴重抗議について

第一三四號（至急）

リマ 5月15日午後發  
本省 5月16日午後着

貴電第七二號接到セルニ付本十五日夕刻外相往訪御訓令ニ依リ嚴重ナル抗議ヲ提出シ同時ニ今後邦人ノ生命ニ關スル取締ノ完全ナル保護、掠奪ニ依ル損害ニ對スル賠償及責任者ニ對スル適當ナル措置ニ付確證ヲ得度キ旨申出テタル處同大臣ハ即時暴民ノ行動ニ對シ祕露政府ノ眞摯ナル遺憾ノ意思表示ヲ行ヒ今後邦人ノ安全確保ノ爲一層ノ努力ヲ爲シ調査ノ結果責任者ニ對シテハ適當ノ措置ヲ執ルヘキ旨直ニ承諾シタルモ賠償ノ問題ニ付テハ現在各方面ニ行ヒツツアル調査ノ結果改メテ會談シタキ旨述ヘタルヲ以テ本官ヨリ現ニ昨夕ヒガ某ナル死者（編註）（一名）及數名ノ負傷者ヲ出シ居ル事實、文明國家ノ首都其ノ他ニ於テ本官屢次ノ懇請ニ依ル警備隊ノ出動ニモ拘ラス二日間ニ亘リテ掠奪力行ハレタルカ如キハ空前ノ不祥事ニシテ本官責任上ヨリモ本日兼攝（ママ）首相及外相トシテ右保障ヲ絕對ニ必要トスル旨述ヘタル處同大臣モ結局之ヲ承諾シ委員會ヲ作成シ之カ調査ノ結果定メラルヘキ金額ノ賠償支拂方ヲ承知セリ

事態躊躇ヲ許ササル爲同大臣ニ對シ忌憚ナク御話スヘキ旨冒頭シ政府高官ノ今次事件ニ對スル認識不足ノ點殊ニ下僚カ上司ノ命ヲ實行セサル點加之無産分子ノ巧妙ヲ極メタル各種ノ暗躍等ヲ事實ニ依リテ立證セル處（例ヘハ警備隊ノ行動不活潑ニシテ暴民ハ警官ノ目前ニ於テ掠奪ヲ實行セリ又今日猶反日ノ「ビラ」撒布サレツツアリ）同大臣モ之ヲ認メ遺憾ノ意ヲ表シタリ尙右委員會ハ一刻モ早く結成及行動開始ヲ必要トシ明朝更ニ督促スヘシ

編注 暴動による死亡者一名については、「暴徒ノ發砲ニ依

ラスシテ當時暴徒ニ對抗セル邦人側ノ發砲ニ依ル疑ヒ濃厚ナルコト後刻判明セル」旨が昭和十五年五月三十一日付在リマ佐藤領事より有田外務大臣宛公信機密第一〇三号をもつて報告された。公信機密第一〇三号は六月二十四日に本省接受。

~~~~~

1141

昭和15年5月16日 有田外務大臣より
在ペルー佐藤臨時代理公使宛（電報）

暴動鎮圧の遅れや悪質流言の取締り不徹底な

ど対応不備をペルー政府へ明確に指摘方訓令

本省 5月16日後10時0分発

第七五號

貴電第一三三號ニ關シ

一、今回ノ排日暴動ハ貴電第五項ノ事情アリトスルモ少ク共表面ハ日本人ノミヲ目標トシテ行ハレタル點ニ於テ昭和五年ノ暴動ニ比シ一層惡質ナルコト

二、前回ノ暴動ハ革命ニ際シ國內治安ノ混亂ニ乘ジ行ハレタルニ反シ今回ノ暴動ハ平時且警察力ノ最モ嚴重ナル祕露政府ノ膝下ニ於テ行ハレ而モ暴動勃發後長時間ヲ經過スルモ鎮壓セラレザリシコト

三、暴動勃發前既ニ惡質「デマ」報道サレ之ニ對スル我方累次ノ抗議ニカカハラズ先方カ之ニ應ゼザリシハ(貴電第三項)祕國政府ニ於テ事件豫防ノ爲メノ措置ニ缺ケタル次第ナルコト

ノ諸點ハ今後ノ責任追及竝ニ損害賠償要求ノ爲ニモ此際先方政府ニ對シ充分明確ニ指摘シ置カレ度

尙暴動ノ地方波及防止ノ爲最モ嚴重ナル警戒手段ヲ採ル様政府ノ訓令トシテ重ネテ申入レ置カレ度シ

1142

昭和15年5月16日

在ペルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

暴動事件の損害賠償および再発防止の保障を

求めた覚書をペルー政府へ提出について

付記

昭和十五年五月十六日付在ペルー佐藤臨時代理公使よりイ・ムーロペルー外務大臣宛公信

第二二号

右覚書

リマ 5月16日後発

本省 5月17日後着

第一三八號

貴電第七五號ニ關シ(里馬市ニ於ケル排日暴動ニ關スル件)御來示ノ三項トモ訓令執行ノ際指摘濟ニテ地方ニ暴動波及防止方ニ關シテハ更ニ口頭及公文ヲ以テ申入レ置ケリ

口頭ヲ以テ要求シ承諾ヲ得タル損害賠償及將來ニ對スル生命財産ニ對スル保障(責任者所罰ノ件ニ關シテハ口頭ニ止ム)ハ改メテ書面ヲ以テ確證ヲ求メ置ケリ

十四日附「ノート」ヲ以テ祕露政府ハ深厚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ事件ノ繰返サルルコトヲ防止シ且日本國民ニ

對シ廣汎ナル保障ヲ與フル様命令シタル旨申越セリ

(付 記)

(佐藤代理公使ヨリペルー外務大臣宛公文)

第二二號

以書翰啓上致候陳者貴國政府ハ今後當國在住ノ日本臣民ノ生命財産ヲ保障スヘキ旨竝ニ本月十三日勃發セル最近ノ事
件中存在留日本人ノ蒙リタル損害及毀損ヲ妥當ニ賠償シ右賠
償額ハ閣下ノ指令ニヨリテ構成セラルヘキ委員會ニ依リ調
査ヲ行ヒタル後決定セラルヘキ旨ヲ閣下カ小官ニ約束セラ
レタル昨日ノ會談ヲ茲ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

一九四〇年五月十六日

里馬市ニ於テ

1143

昭和十五年五月十八日

在ペルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

暴動事件の損害賠償および再発防止の保障に
関するペルー政府回答は冷淡かつ事実歪曲が

ある旨報告

付 記

昭和十五年五月十八日付イ・ムーロペルー外
務大臣より在ペルー佐藤臨時代理公使宛公信

和訳文

右回答

リマ 5月18日後発

本省 5月19日後着

第一四九號(至急)

往電第一四二號ノ別電ニ關シ

邦人ノ生命財産ノ安全及損害賠償ノ保障ニ付テハ當方累次
ニ亘リ嚴重督促ノ結果文書ニ依リテ之ヲ確認セシメタルモ
先方來翰ハ全體トシテ冷淡ナルノミナラス會談ノ事實ヲ歪
曲シ新事實ヲモ加ヘ居レリ之ニ加フルニ右來翰中今次「不
祥事件ハ古屋問題ニ依リ各種日本人團體及在留民ノ行動カ
祕露國法ニ違反セル事實ヲ明白ナラシメタル情勢ニ於テ勃
發云々」トアリ右ハ往電第一三一號(編註)政府聲明ト矛盾スルノ
ミナラス往電第一五〇號新聞論調ニモ反シ外務省側カ體面
ヲ糊塗スルト同時ニ事件ノ責任一端ヲ回避センカ爲古屋問
題ヲ利用スル下心トモ想像セラル
右ノ如キ日本人會等ニ對スル誤解(乃至故意ノ曲解)ハ今後

在留民發展途上ノ重大ナル障碍トシテ適當ノ時期方法ニ於テ之カ是正手段ヲ探ルヘシ目下民衆ノ反日空氣猶強ク微力ナル現政府ニ對シ本問題ニ付餘リニ強ク主張スル時ハ日會ノ解散其ノ他今次事件解決上面白カラサル事態ノ發生ノ惧無キニシモ非ス慎重考慮中ナリ今次事件ノ勃發カ政府上層部ニ於テ相當豫見セラレタルハ極秘入手セル五月九日上院關係會議議事錄(別途空送セリ)ニモ明カナリ

編注 往電第一三二号は誤りと思われる。ペルー政府声明に

ついでには第117文書付記参照。

(付記)

(ペルー外務大臣ヨリ佐藤代理公使宛來翰譯文(假譯))

一九四〇年五月十八日(?)附

在留日本臣民ニ對シ當首府ニ於テ勃發セル事件ニ關スル會談ヲ確認スル爲ニ發信セラレタル本月十六日附ノ貴翰第二二號ヲ受領セル趣ヲ茲ニ貴下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候水曜日午後行ハレタル右會談ニ於テ貴下ハ前日日本人ニ對シテ發生シ且ツ當時尙繼續シツツアリシ事件ニツキ詳細説

明セラレタル後上局ヨリハ既ニ命令發セラレアリシニモ不拘之ニ服從セス終ニ何等事件ヲ防止又ハ抑壓スルコトナカリシ警察官ニ對シ苦情ヲ申立テラレ又日本人ノ蒙リツツアル脅威ヲ一掃センカ爲ニハソノ生命財産ニ對シ保障ヲ附與スル事必要ナルニ付之レカ附與方ヲ要求セラレ同時ニペルー側ハ損害ニ對シ賠償ヲ爲ス意向ナルヤ然リトセハ如何ナル方法ニ依リ實行スル積リナルヤニ關シ回答ヲ要求セラルルト共ニ廉直ナル人物又ハ官吏ニ依リ組織セラルヘキ委員會ニ依ルコトノ然ルヘキ旨ヲ本大臣ニ懇懇セラレタリ

右ニ對シ本大臣ヨリ祕露政府ハ本事件ヲ悲シムト共ニ本大臣ヨリ貴下ニ遺憾ノ意ヲ表明スル旨ヲ述ヘタル上本大臣ハ今回ノ民衆ノ蜂起ハ豫測シ得ス突發ナリシ爲之レヲ未然ニ防クコト及急速ニ抑壓スルコトハ不可能ナリシコト又事件發生直後ヨリ必要ナル處置ヲ採リタルモ或ハ下級警察官ニ於テ右處置實行ノ方法ニ於テ不充分ナルモノアリシヤモ計ラレレス又ハ民衆ノ勃發ヲ抑止スルコト能ハサリシヤモ計ラレサルコト

今回ノ蜂起ハ祕露ノ國法ト在留日本人トノ不規則ナル關係カ明ラカニセラレタルカノ不幸ナル古屋事件ニ依リテ醸成

セラレタル雰圍氣ニヨリ誘發セラレタルコト及同事件ニ更ニ日本人カ市内及一部地方ノ小商賣ヲ殆ント獨占シ内國人ヲ驅逐シツアルヨリ來ル民衆ノ不滿カ加ハリタルコト
ペルー政府ハ今後外國人及内國人ニ對スルト同様日本人ニ對シ引續キ保證ヲ與フヘキコト

不法行爲ヲ終熄セシメンカ爲ニ既ニ適當ナル措置講セラレタルコト、實際ノ被害ノ損害賠償ニ關シテハ豫メ調査ヲ施シタル上主義トシテ之ヲ受諾シ被害ノ實情調査ニ關スル方法ハ追テ研究スヘキコト

ヲ上記會談ニ於テ述ヘタリ。

尙會談ヲ終ルニ當リ貴下ハ満足ノ意ヲ表セラレ且ツ貴國政府ノ命ニ依リ正式抗議ヲ提出スルモノナル由ヲ告ラレタルニ付本大臣ヨリ右ヲ了承スル旨ヲ答ヘ置ケリ。
本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ敬意ヲ表シ候。

1144

昭和15年5月19日 在ペルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛（電報）

国勢調査の実施および移民入国・営業制限法
規の厳格適用措置をペルー政府発表について

リマ 5月19日後発
本省 5月20日前着

第一五一號

祕露政府ハ十八日附大統領令ヲ以テ來ル六月國勢調査行ハレ正確ナル在留外人數判明スヘキニ付外國移民ノ入國ハ注意スル旨公布スルト同時ニ法律第七五〇五號及移民營業制限令第一〇條規定ノ勞働者使用人及小作人ノ八割制ヲ強行シ竝ニ各外國人ニ對シ定メタル「クオータ」制ヲ嚴重ニ適用シ不正入國者ノ追放ヲ規定スル法律第四一四五號ノ峻嚴ナル施行ヲ命スル爲外人「カルネ」ヲ檢査スヘキ旨公表セリ

右措置實施ニ至レル經緯モ明瞭ナラス又査證濟ノ者旅行ノ途中ニ在ル者及再渡航者ニ對スル取扱竝ニ本令ノ期間等ニ關シ何等規定セラレ居ラサルニ付至急取調ノ上追電ス

1145

昭和15年5月20日 在ペルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛（電報）

国勢調査実施の経緯をペルー外務次官説明について

リマ 5月20日後発
本省 5月21日前着

第一五四號(至急)

往電第一五一號二關シ

外務次官ト會見右立法ノ經緯及取扱振等ニ關シ意見ヲ徵シタル處右手段ヲ執ルニ至リタルハ今次事件ニ際シ廣ク誤リ傳ヘラレタル在留日本人數ノ誇大ニ失スルトノ宣傳ヲ一掃スル爲又最近激増セル猶太人不正入國者取締ノ爲ニシテ國勢調査終了後取急キ在留外國人ノ數字ノミヲ計算シ右ヲ基礎トシテ移民營業制限令ヲ適用セントスル意嚮ナリ

又在外領事ニ對シテハ移民ノ旅券査證ヲ中止(非移民ハ豫メ許可ノ伺ヲ立テシメタル上査證ノ可否ヲ決ス)スル様命令シタルカ旅行ノ途中ニアル者既ニ査證ヲ有スル者再度渡航ノ許可ヲ有スル者等ノ取扱振ハ之ヲ明瞭ナラシムル必要アルニ付公文ヲ以テ問合サレタシト述ヘタリ

前記公文ニ引用ノ必要アルニ付平洋丸ニ乗船セル移民ヲ再渡航新移民及男女別ニ分ケテ御回電ヲ請フ

1146

昭和15年5月21日
有田外務大臣より
在ベルー佐藤臨時代理公使宛(電報)

日本人移民への入国・營業制限措置は暴動直

後でもあり取止めるようベルー政府へ申入れ

方訓令

本省 5月21日後8時10分發

第八四號

貴電第一五一號及第一五四號ニ關シ

祕露政府ガ突如カカル大統領令ヲ公布シタルハ外務次官ノ說明ニ依ルモ尙諒解シ難キ節アリ旁々暴動ニ關スル先方來翰中ニ殊更古屋事件及ビ在留邦人ノ行動ニ言及シ居ル等ノ次第ト併セ考フレバ先方ニテハ貴電第一四九號御來示ノ通り暴動ノ責任ノ一半ヲ邦人側ニ轉嫁スル口實ヲ求ムルト共ニ此ノ機會ニ外國人關係各種取締規定ノ勵行ヲ名目トシ邦人ノ入國問題其ノ他ニ關シ從來日祕双方ノ話シ合ニ依リ施行シ來レル便法ニ對シテモ自己ノ都合良キ様變更ヲ講セントノ下心アルヤニ邪推セラレザルニ非ズ果シテ然ラバ先方ノ遣リ口ハ頗ル不穩當且非友誼的ナリト言フべく就テハ至急先方政府ニ對シ暴動ニ依ル我國民ノ衝動未ダ生々シキ矢

先ニモアリ理由ノ如何ヲ問ハズ此ノ際從來ノ慣行ヲ變更シ邦人ノ入國停止、營業壓迫等ノ結果ヲ來ス措置ヲ採ルコトハ嚴ニ差控ヘラレ度キ旨予メ篤ト申入レ置カレ度且其ノ適用振り如何ニヨリテハ大統領令其ノモノニ對シテモ抗議ヲ申入ルル余地ヲ存シ置ク様致度シ尙今後ノ在留民ニ對スル先方出方乃至ハ大統領令ノ施行振り等ニ關シ貴見ト共ニ詳細回電アリタシ

尙暴動事件ニ關シテハ大統領令トハ別個ノ問題トシ先方ノ責任及賠償其他今後ノ保證等充分ニ確保スルヲ要スル事勿論ニシテ貴電第一四三號乃至一四七號ノ往復文書ハ惶惶ノ際交換セラレタル事情ハ諒トスルモ我方ノ言ヒ分ニ付意ヲ盡シ居ラズ又先方ノ回答振りモ不満足ナルニ付此ノ儘ニテハ濟シ難キモノト思考セラレ追而措置方考究中ナリ右貴官御含ミ迄

1147

昭和15年5月21日

在ベルー佐藤臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

ペルー上院秘密會議での排日的決議にも鑑み

日本人移民入国・營業制限措置の取止め要求

は慎重かつ懇談的に実行方請訓

付記 昭和十五年六月、亜米利加局第二課作成

「祕露國議會ニ於ケル排日論議要譯」

リマ 5月21日後発

本省 5月22日後着

第一五七號(至急)

貴電第八四號ニ關シ(里馬市ニ於ケル排日暴動ニ關スル件)

在留邦人カ祕露ノ總ユル職業ニ進出シ當國一般カ右ヲ社會問題トシテ重大ナル關心ヲ拂ヒ居ル現狀及今日ノ排日的空氣ノ釀成ニハ在留民自身ニ於テモ反省スヘキ事情ノ多々アル事實及之カ對策ニ關シテハ領事館往信機密第五四號ヲ以テ詳細ヲ報告ニ及ヒ置キタル處最近極祕入手ノ議會速記録ニ依レハ四月五日上院祕密會開カレ

一、日本移民ニ關スル「プロトコロ」ヲ變更シ入國條件ヲ嚴重ナラシメ現在設立セラレ居ル事業ノ資本金ノ倍額ヲ所有セサル移民ハ絶對的ニ禁止シ都會ニ於ケル正業以外ニシテ農業ニ從事スル者ハ許可スルモ之ニハ萬全ノ注意ヲ拂フコト

二、事業ヲ標準數以上ニ同種事業設立セラルルトキハ課金及

税金ヲ引上ケ都會ニ於ケル日本人ノ新規商企業ノ設立ヲ妨クルコト右ハ一般法ヲ以テ規定シ他ノ場合ニハ變更ヲ加ヘ得サル様立法スルコト

三、祕露人ニ依リテ既ニ設立セラレ居ル企業ノ四分ノ一以上ノ同種企業ノ設立ヲ禁止スルコト

四、在留民ノ自治ヲ行フ傾向ヲ有スル總テノ協會ニシテ假令日本人間ノミノモノナリトモ其ノ存在ヲ排除スル旨

ノ政府ニ對スル勸告ヲ決議シ

政府ハ五月九日ノ關係會ニ於テ「タクト」ト周到ナル用意ヲ以テ右實行方約スル所アリタリ(祕密會議事録ハ別途郵送)

茲ニモ現政府ノ妥協的態度ノ一端窺ハルル次第ナルカ他方「アプリスタ」ハ「ブラド」大統領就任以來彈壓ノ手ノ弛ミタルニ乘シ學生ノ反政府運動及總同盟罷業等ヲ企テタルモ鎮壓セラレタルニ付機會ヲ窺ヒ居タル處上記上院討議ノ内容ヲ探知シ祕密會ノ席上論議ノ的トナリタル邦人武器ノ隱匿「チンボテ」港占領計畫等無根ノ放言ヲ材料トシ遂ニ今般ノ慘事ヲ惹起セルモノナリ

今般ノ移民停止令ハ外務次官説明ノ通り目下高潮ノ點ニ達

シ居ル排日空氣ヲ緩和セントスルト同時ニ政府ノ上院ニ對スル約束ノ一ヲ實行ニ移サントスル一石二鳥の政策ナリト看取セラレ何レ機會ヲ捉ヘテ八割制ノ強行營業制限、日本人會ノ閉鎖等ニモ及フコト想像ニ難カラス此ノ際今次事件ニ適當對處セサルトキハ將來ニ惡例ヲ貽スコトトナリ勿論不可ナルモ在留民ノ現狀カ冒頭往信ノ如クニシテ下級官吏ト結託シ各法規ノ不實行ハ日常茶飯事ニシテ領事館事務ノ大部分カ在留民自身ノ不始末ノ尻拭ナル現狀ニ於テ今後法規ヲ勵行セラルレハ其ノ場合ハ大部分衰亡ノ外ナク

又日本人會ノ彈壓ハ學校經營上大打擊ナルニ付心アル祕露官民カ今次事件ニ痛憤シ居ル事情及在留民ノ現狀慎重考慮ノ上差當リ緊急必要ナリシ治安維持要求ノ爲口頭ヲ以テ嚴重抗議シ文書ヲ以テハ簡單ニ約束ノ確認ヲ求ムルニ止メタル次第ナリ政府ハ上院ノ勸告ヲ受諾シタル立場モアリ之ニ對シ今急ニ其ノ態度ノ變更ヲ求ムルハ當國一般ノ(不明)ヲ利用シ藉スニ時日ヲ以テシ懇談の二行フニアラサレハ如何ナル復讐の措置ニ出ツルヤモ測リ難キニ付大砲射程距離外ニ二萬二近キ在留民ヲ擁スル當館ノ立場ヲモ篤ト御考慮相成様致度シ但シ問題ノ大統領令ノ公布ハ了解ニ苦シム所ナ

ル旨及先方ノ返翰ハ新事實ヲモ附加シアリ又日祕兩國ノ友好關係ニモ顧ミ不穩當ノ點アルコトヲ指摘シ追テ當方ヨリ見解ヲ申入ルヘキモ適當考慮アリタキ旨竝ニ將來ノ措置及調査委員會ノ活動開始促進ニ關シ二十一日外務次官ニ申入レ置ケリ

(付記)

(昭和十五年六月)

祕露國議會ニ於ケル排日論議要譯

亞米利加局第二課

本年五月十三日祕露國里馬市外各地ニ勃發シタ排日暴動事件ハ被害件數約六百件損害額三百五十萬圓死傷十數名ト云フ我同胞海外發展史上未曾有ノ不祥記録ヲ殘シ祕露國政府ノ陳謝ニ依リ一先ツ終熄シタカ同事件勃發ニ先立ち數ヶ月ニ亘リ同國議會ニ於テハ矯激ナ排日論議屢々行ハレ新聞雜誌ニハ連日ニ亘リ煽動的ノ排日記事掲載セラレ更ニ巷間ニ於テハ排日示威運動及ボイコット等ノ計畫サヘモアリ之等ハ實ニ前記暴動ノ前奏曲テアツタノデアル茲ニ四月五日及五月九日兩日ノ同國上院祕密會議々事録ヲ入手セルニ付要

領ヲ翻譯スルコトトシタ。議事中排日議員カ「日本人問題ハ祕露カ獨立以來初メテ直面セル重大問題テアル」ト迄極言セル點ノ如キ又總理兼外務大臣カ如何ニ答辯セルカ之レヲ一讀セハ在祕日本人ニ對スル同國朝野ノ輿論如何ヲ察知シ得ヘク我方今後ノ對策上參考トナル點モ尠ナカラサルヘシ

昭和十五年六月十九日

亞米利加局第二課

排日問題ノ論議セラレタ祕露國議會上院祕密會議ノ

議事録要譯(五月九日ノ議事録ヨリ)

外務大臣(ソルフ、イ、ムロ氏)從來政府ノ採ツテ來タ處ヲ闡明ニシ無用ノ恐怖心ヲ一掃センカ爲ニ臨席セル趣ヲ告ケタ)

ダイエス、カンセコ議員 各地テ目下噂ノ中心ニナツテ居ル日本人問題ハ既ニ公然ノ祕密テアル日本人ノ潛入的侵略ノ結果ペルーノ行政機構ハ素ヨリソノ國權自体カ目下危險ニ類シテ居ル。日本人ノペルー侵略ハ目下全世界ノ凝視シツツアル處テ北米ノ如キ米大陸ノ保全上カラ云ツテモ危險ナルモノトシテ本件ヲ特ニ注視シテ居ル。日本

在留民ハ太平洋岸ニ於テ特ニ危險性アリ彼等ハ既ニ第五部隊ヲ有ストカ武器ヲ貯藏シ居レリトカ噂アルノミナラス曾テ二回ニ亘リ内務省ニ對シ公安維持ノ爲必要アラハ三千乃至一萬ノ武装者ヲ提供スヘキ旨ヲ申出テタ事實カアル。右一萬ノ武装者ハ時至ラハペルーヲ根據トシテパナマ運河襲撃ノ舉ニ出ツルコトカ出來ヨウシ又「ペルー」ノ海岸ヲ日本ノ艦隊又ハ航空機ノ基地トスルコトニ重要ナ役割ヲ務ムルテアラウ。右ハ日本人從來ノヤリ方ニ鑑ミ必シモ空想トハ言フマイ。最早問題ハ在祕日本人ノペルー人小商賣人驅逐ト言フ様ナ小事件テハナイ問題ハ更ニ重大テアル。本問題ニ對スル政府ノ無爲無策ニ鑑ミ議會ハ茲ニ政府ノ注意ヲ喚起スルト共ニ國民ノ抗議及反撃力ヲ強化スル必要カアル。日本人カ團體ノ組織サレテ居ルコトハ刻下ノ紛糾セル國際情勢下ニ於テハ殊更危險テアル、今日ノ時勢テハ弱イコトハソレ自體カ強國ニ對スル好餌テアル支那滿洲ヲ征服シタ亞細亞ノ國日本ハ祕露ニ對シテモ何等苛責スルコトナク同様ノ態度ニ出ルヤモ計リ難イ。日本ノ領事官憲ノ手ニ依ル歸化ペルー人追放事件ノ如キ或ハ日本人ニ依ル市役所吏員ヘノ贈賄事件

ノ如キ或ハ武器貯藏發覺事件ノ如キ此ノ如キ度重ナル現實ノ問題ノ後ニ於テ我政府ハ今尙日本在留民ヲ以テ何等危險性ナキ單純ニシテ勤勉ナル分子ト見做スモノナリヤ右ノ點ニ付テ政府ノ回答ヲ承り度イ。祕露人商人ハ日本人ヨリ完全ニ驅逐サレテモ差支ヘナイト云フノテアルカ又祕露人小作人ハ日本人ヨリモ惡イ待遇ヲ受ケテモ顧ミナイト云フノカ日本人カ國內各地ニ耕地ヲ手ニ入レ商賣ヲ營ミカハマルカ縣ノ銅ノ採掘ニ至ル迄手ヲ延シテ居ルノハ單ニ勞働ヲ好ムカ爲テアルカ或ハ他ニ計畫的ナ意圖カアルノテハナイカ右ノ事實ニツイテ大臣ノ責任アル答辯ヲ承り度イ。

ホルダン、カネバ議員 余ハ只今ノ說ニ全然同感テアル本件ハ重大問題テアルカラ速カニ適當ナ方法ヲ構シナケレハ收拾ノ途ナキ規模ニ及フテアラウ。日本人ノ侵略ヲ嚴重ニ取締ル必要カアル。過日海軍兵學校ノ例ニ見タ様ニ一見單純ナ料理人テアリソノ實海軍ノ高官ト云フカ如キ連中ノ實體ヲ露ク必要カアル。日本人ノ行動ハ勞働以外ニ危險ナ意圖ヲ包藏シテ居ル際テアルカラ政府ハ具體的ノ手段ヲ採ツテ行動ノ自由ト國家ノ獨立ヲ確保スルコト

カ肝要テアル

アルバ議員 歸化人ノ追放事件ニ何故ニ日本領事館ノ館員カ關係シタカ又之レニ對シ政府ハ如何ナル措置ヲ採ツタカガ伺ヒ度イ。日本在留民ノ組織統制ニ關シテハ此際取調ヘ事實ヲ闡明ニスル要ガアル。刻下暴力法ヲ征服シツツアル際テアルカラ總テノ危險ヲ未然ニ防ク必要カアル。

外務大臣 本大臣ノ本會議出席ノ原因トナツタ不愉快ナ事件ハ極メテ多角的ノ面相ヲ有シテ居リ簡單ナ理論テ説明スルコトハ困難テアル。ベナビデス政權時代ノ日本移民制限問題ハ本政府ノ關係セナイ處デアリ現政府トシテハ從來締結セラレタ協定ヤ條約ニ依ツテ來ル國際的義務ヲ嚴重ニ履行スルコトニ努メタ迄テアル。日本移民ノ入國夥多カ問題トナツテ居ル様テアルカ實際ニ於テハ入國ハ非常ニ面倒ナ手續ヲ經ナケレハナラナイノテ入國夥多ト云フカ如キ事實ハ無イノミナラス却ツテ最近ハ入國力制限セラレテ居ル狀態テアル。「デイエス、カンセコ」議員ハ日本移民ハ近來脅威的性質ヲ帶ヒテ來タト云ハレルカ日本移民ノ入國ハ總テ正式ニ行ハレテ居ルノテ不正ナ手

段ニ依ツテ多數ノ入國カ行ハレテ居ヨウトハ思ハレナイ。舊來ノ政府ニ於テ農業移民トシテ日本人ノ入國ヲ許シタ例ハアルシ又此等ノ移民ノ都市流入ヲソノ儘放任シタ例ハアル然シ最近ハ各政府ハ常ニ都市集中ヲ避ケシムルト共ニ農業移民ニ對シテモ制限ノ方針ヲ採ツテ來タコトハ事實テアル。日本人カ主トシテ海岸地方ノ都會及農耕地ニ集中セル事實ヨリシテ所謂第五部隊ナルモノト關係アルヤニ云ヒ振ラサレタ又日本人カ武器貯藏センコトカ發覺サレタトモ噂セラレタ。然シ乍ラ議員諸君ヨ此ノ如キハ無根ノ事實テアツテ多クノ人ノ妄想性ノ強大ナノニハ實ニ驚クノ外ハナイ「タマヨ」氏ノ時代ニ「アブリスタ」連中ノ騷動カアツタ際在留日本人ハ内務省ニ出頭シテ自衛ノ目的テ武器携帯方許可ヲ願出タコトカアル然シ右ハ單ニ各人ノ防禦用ヲ意味シタモノデ而モ社會的ニモ政治的ニモ物情騷然タリシ時期ノコトテアル。次ニ「ベナビデス」大統領ノ時代ニ日本人中ノ代表的人物數名カ内務省ニ出頭シテ萬一ノ場合秩序維持ノ爲政府ニ於テ必要トアラハ三千名ノ完全ニ組織セラレタ人員ヲ提供スヘキ旨ノ申出カアツタ、右ノ兩事件ハ固ヨリ善意ニ出

テタ自己防衛ヲ目的トスル秩序維持ノ申出ニ過キナイノ
テアルカ日本人ノ第五部隊云々ノ風説ハ實ニ之レカラ生
レタノテアル。一度妄想ノ駒カ飛ヒ出セハ停止スル處ヲ
知ラスサテハ理髮師ハ陸軍將官ノ化テアリ或ハ料理人ハ
海軍將官ノ假裝テアリト云フカ如キ流言ヲ生ムニ至ツタ
ノテアル。要スルニ右ハ不可能ト云フ譯テハアルマイガ
此ノ場合ニ於テハ事實テハナイ。

「ホルタン」議員 海軍兵學校ノ料理人事件ハ事實アツタ
コトテハナイカ

外務大臣 實際ニ證明サレタ事實テハナク一ノ想像テアツ
テ正確ナ判斷ヲ下スコトハ困難テアル

コンチヤ議員 コノ日本人事件ノ裡ニハ危險ヲ艾除セント
スル愛國心以外ニ政府ノ對外交渉、又ハ内政ヲ防害セン
トスル意圖ノ潜在セルコトヲ知ラネバナラン、本議員ノ
外務大臣在任中ニ於テモ、
、
、
、

右「コンチヤ」議員ノ發言カ動機トナツテ「デイエス、カ
ンセコ」議員先ツ起立シ「貴下ノ時代ニ日本人ハ急ニ發展
シタテハナイカコノ事態ニツイテハ貴下ノ如キ個人的ニモ
大ナル責任アリノ云々」トテ同議員ヲ攻撃シ出シ各方面ヨ

リ發言スルモノ多ク激論交ヘラレ騒然トシテ言辭ヲ算セス
議長、斡旋ニ依リ漸ク靜肅ニ歸シタ。

外務大臣 要スルニ今回ノ問題ハ移民ノ入國増加又ハ日本
人ノ武器貯藏ト云フカ如キ事實ヨリ誘發シタノテハナク
シテ日本人ノ小商賣及日本人ノ小作人ニ對スル平素ノ不
満カ昂シテ今日ノ事態ヲ作ツタモノテアリ且ツ直接ノ原
因トナツタノハ日本人ノ敵或ハ現政府ノ反對者ニ依ツテ
煽動サレタ一新聞記者ノ排日記事テアル即チ内務省ノ調
査ニ依レハ「パテイスタ」ト呼フ記者及ソノ同僚「サラ
ペリー」ノ兩名カ不平分子ノ反感ヲ表面化セシメタノテ
アル而シテ右排日運動ノ口實トナツタノハ例ノ警察事故
古屋問題テアル。今回ノ動搖ノ發端トナツタノハ運動雜
誌「ムンド、グラフイコ」ノ記事テアル。同誌ハ運動記
事ノミテハ嫌キタラス恐ラク不逞分子ト聯絡ノ上古屋間
題ヲ利用シテ公安ノ攪亂ヲ企ランダノデアラウ。本週刊
雜誌ノ連續的ノ排日記事ハ既ニ民心ヲ挑發シ日本人襲撃
並現政府攻撃ノ爲ニ人民ノ一部階級ヲ煽動スル處カアツ
タ又右ト同時ニ目的不明尠クトモ社會的防禦以外ノ目的
ヲ有スル同盟罷業カ勃發シタ

「ロサダ、ペナベンテ」議員 大臣ハ本運動ハ政府反對者ノ策動ト云ハルルモ共和國副大統領ノ所有ニ係ル「ラ、クロニカ」紙モ亦同様ナ記事ヲ掲ケタデハナイカ

外務大臣 成ル程本事件ハ新聞記事トシテハ「ラ、クロニカ」紙モ取扱ツタ然シソノ動機ニ關シテハ同紙ノ主筆自身ニ於テ當局ニ説明スル處カアツタ通り全然趣ヲ異ニシテ居ル。既ニ反日及反政府ノ空氣カ醞釀サレテ居ル際ニ五月三日「ラ、ツリブナ」ト稱スル秘密新聞カ現ハレタ、固ヨリ政府ハ何レノ新聞ト雖モソノ軌道ヲ脱線シナイ限り別ニ僻見ヲ有スルモノテハ無イ而シ乍ラ此ノ秘密出版物ハ同日ノ社説ニ於テ排日記事ヲ掲ケ日本人ハ祕露ニ危險ナ第五部隊ヲ組織シテ居ル疑アルコトヲ書イタ。又「ピラ」ヲ散布シテ日本人カ北方ニ武器ノ貯藏率^(マ)ヲ有セリトカ、日本人ハ「チンボテ」港ノ占領ヲ企テ居ルトカ、日本軍艦ニ隻來航ストカ種々ノ「デマ」ヲ流布スルモノカアツテ之等ノ虚報ハ労働者階級ニ對シ導火線ノ如キ速サヲ以テ蔓延シタ。日本人問題ニハ現實ノ危險アリトハ認メス危險ハ各人カ幻想ヲ逞ウスルコトニ依ツテ來ル。幻想ノ產物トシテカヤオ港ニハ反日示威運動及日本品ボイコットノ

計畫モアツタカ之レハ政府ニ於テ未然ニ彈壓ヲ加ヘタノテ幸ニ事ナキヲ得タ然シ一方ニ於テハ「ムンド、グラヒコ」誌ヤ怪文書ハ前述ノ如キ武器ノ發覺、第五部隊ノ組織其他ノ虚報ヲ流布シタカ之等ノ虚報ノ基礎トナツタノハ實ニ古屋問題デアル

マンチエゴ、ムニヨス議員 古屋問題ノ真相ニツキ説明ヲ乞フ。何故ニ日本領事館ノ館員カ捜査局吏員ノ援助ヲ得テ歸化ペルー人ノ直接追放ニ當ツタノテアルカラ闡明セラルル様致シ度イ

外務大臣 支那人トカ日本人トカ特種ノ難解ノ國語ヲ話ス 在留民ノ間ニハ彼等ノ便宜上自國ノ外交官及領事館ニ對シ特別ノ從屬關係ヲ持ツ傾向ガアルカ右ハ内外人ニ對シ無制限ナル祕露ノ主權ノ冒濫^(濫)ヲ意味スルモノニアラサルハ勿論デアル。而シテ日本在留民ニ關シテハ近年ノ慣行トシテ若シ日本人間ニ不正入國其他ノ事實ニ依リ本人ノ在祕ヲ好マシカラストスルモノアル場合ニハ日本側ニ於テ本人ヲ捜査シ送還ヲ要求スル様豫テ日本公使館トノ間ニ申合カアル。右ノ方法ハ言語其他ノ關係ニ於テ祕露警察側ニ對シテモ非常ニ便利デアル古屋ナル市民ニ付テハ

本人ハ危険人物デアリソノ祕露滞在ハ好マシカラサル旨
豫テ日本官憲ヨリ申出カアツタ然シ作ラ本人ノ逮捕、拘
留及乗船ノ方法ニハ不尠無理カアリ且ツ越權ノ點モアリ
之レニ對シテハ已ニ我方ヨリ抗議シタ位テアル。逮捕當
時關係者中打撲傷ヲ受ケタモノ數人アリソノ内ニペルー
人ノ若イ女性カ一名アツテ同人ハ同事件數ヶ月後婦人病
手術ノ結果死亡シタ然シ打撲傷ノ結果テハナイ。本件ニ
付テハ過誤ガアリ無理ナ取扱方カアツタカ已ニ兩國當局
間ニ於テ解決セラレテ居ル。然シ今故意ニ本問題ヲ再燃
シ様トシテ居ル模様テアル。

シルバ、エルゲラ議員 祕露ノ法權直屬ノ事項ヲ外國官憲
ニ委讓シタ點ニ於テ大ナル誤チカアル。

外務大臣 法權ノ委讓テハナク警察事務ヲ手傳ハシメント
スル單ナル申合セテアル、日本領事館カラ古屋ハ好マシ
カラストノ立證カアツタノテ祕露官憲カラ發給シタ逮捕
命令ニ依ツテ行ハレタノテアル然シ一旦古屋ノ國籍カ明
ラカニセラルルヤ本件ハ自ら取扱ヲ異ニシタ而シ何レニ
シテモ本件ニ關シテハ政府ハ數年前ニ取結ハレタ申合セ
ニ從ツテ行ツタ迄テアルカラ現政府ニハ責任ハ無イ

デイエス、カンセコ議員 現政府ニ責任ノナイ事ハ了知シ
居リ本事態ノ根本責任ハ文治派政權ニアル

右「デイエス、カンセコ」議員カ「文治派政權ノ責任云々」
ト云ヘルカ動機トナツテ同議員ト「コンチャ」議員(舊文
治派系統ノ人物)トノ間ニ激論起リ「デイエス、カンセコ」
議員ハ文治派政權下ニ勞働賃銀ノ安キ多數ノ日本移民カ誘
入セラレ夫レカ支那人ヤ黑人トハ素質ヲ異ニシタ向上のナ
人種デアツタカ爲終ニ國內各地ニ於テ小商賣ニ於テモ小作
農ニ於テモ「ペルー」人ヲ驅逐スルニ至レルコトヲ述ヘ之
レニ對シ「コンチャ」議員ハ前外務大臣トシテ自己ハ何等
關係ナク此ノ如キ中傷的風評ヲ流布シタノハ「ベナビデ
ス」政權ノ反對黨タル「アブラ」黨ノ所爲デ日本移民ニ關
スル限り自分ハ前任者ノ制限政策ヲ踏襲スルニ停マレル旨
ヲ述ヘテ應酬シタ又外務大臣ハ此際低級ナ人身攻撃ヲ避ケ
テ事態ヲ靜觀シ對策ヲ講スルノ必要アル旨ヲ説キ更ニ次ノ
如ク云ツタ

議員諸君ヨ政府ハ日本人ノ異常ナ活躍ヲ制限スルコトニ
ツキテハ方途ヲ有シテ居ルニ付信賴セラレテ可ナルヘク
日本人ノ第五部隊トカ武器貯藏ト云フカ如キ荒唐無稽ノ

流説ニ惑ハサレサル様致シ度イ

「フエルナンデイニ」議員 我々ハ外務大臣ノ説ニ信賴シ
ナケレハナラン然シ一面日本人ノ危険性ニツキ一般市民
カ非常ニ神經質ニナツテ居ルノモ諒トサレル。數千ノ日
本人カ北部「チンボテ」港ノ如ク軍略的ニ價値アル地方
ニ漸次蝟集シツツアル事實及現下ノ國際情勢殊ニ北米ト
日本トノ緊迫セル關係等ニ想到スル時ハ無智ナ連中カ日
本カ「チンボテ」港ヲ占領セント企圖シツツアリト噂ス
ルノモ強チ無理テハナイテアラウ

「コンチャ」議員 一九三四年ニ外務大臣トシテ日祕條約
ノ廢棄ヲ敢行シタノハ自分テアル、當時日本側ヨリ強力
ナ反對工作モアツタカ自分ハ斷然之レヲ押し切ツテ條約
ノ廢棄ヲ決行シ爾後日本側ヲシテ最惠國約款ノ口實ヲ與
ヘシメサルノミナラス日本移民ニ對スル入國制限ヲサヘ
實行シタノテアル。次ニ一九三六年ニハ我政府ハ日本綿
製品ノ輸入制限ヲ行ツタ即チ種々困難ヲ克服シ同年三
月終ニ日本公使館ヲシテ輸入制限ニ關スル公文ヲ交換セ
シムルコトニ成功シタ右ノ主タル目的カ内國工業保護ニ
アツタコトハ云フ迄モナイ

「ウルタニーピア」議員 日本在留民カ勤勉ナ國民テアツ
テ歸化人ト雖モソノ本國ヲ忘レナイ程ノ愛國心ヲ持つテ
居ル國民テアルコトニハ反對ハナイカ日本人カ各職業ニ
於テペルー人ヲ驅逐シテ居ルコトハ日本軍ノ侵略ト云フ
カ如キ空想ヲ離レタ現實ノ危険テアル

「ロサナ、ペナペンテ」議員 日本軍ノ侵略ハ別ニ空想テ
ハナイ我々ハ目下歐羅巴ニ於テ弱小國カ獨逸ノ爲一タマ
リモナク蹂躪サレテ居ル實例ヲ見テ居ルテハナイカ
外務大臣 要スルニ本大臣ハ茲ニ政府ノ名ニ於テ日本人ノ
入國ニ關シテハ今後更ニ制限ヲ嚴重ナラシムヘキコトヲ

諸君ニ確言スル、又小商賣方面ニ於ケル發展ノ現狀ニ關
シテハ之レカ制限ノ爲適當ナ方法ヲ講シ將來ノ膨脹ニ付
テモ然ルヘキ「リミット」ヲ設ケシムルコトトスヘク更
ニ日本人ノ猜疑アル活躍ニ關シテハ今日迄ハ別ニ之レヲ
信スル證據ナカリシト雖モ今後ハ之亦充分監視ヲ加フル
積リテアル。同時ニ亦日本領事館員ノ權限ニ關シテハ如
何ナル場合ニ於テモ祕露法權ノ範圍ヲ越ヘルコトナキ様
政府ハ慎重ナ考慮ヲ爲ステアラウ。近來「ペルー」人ハ
割使用法實施ノ結果日本人ノ店舗ニモ澤山ノ「ペルー」

人ノ就職ヲ見ル様ニナツタ際テアルカラ日本人ニ對シ過酷ナ壓迫ヲ加フルコトニ依リ右「ペルー」人ヲ路頭ニ迷ハス様ナコトヲシテハナラナイ。本問題ニ關シテハ政府ハ最善ヲ盡ス積リテハアルカ慎重ニ處理スル必要カアル經濟的危機モ目前ニ差控ヘテ居ル際テモアルシ此ノ如キ問題ノ爲ニ時局ヲ更ニ紛叫セシムルコトハ注意ヲ要スヘク議會ハ本問題解決ノ爲政府ニ信賴セラレンコトヲ希望ス日本人ノ入國及活躍問題ハ該下ノ國際時局問題ノ餘暇アリ次第政府ノ著手スル處ナルヘシ折角議員諸君ノ御協力ヲ希望ス

議長 外務大臣ハ本日本院ニ御出席ノ動機トナツタ各事項ニツキ明瞭ニ説明ヲセラレタノテ各議員ハ日本在留民間ニ關スル政府ノ措置ヲ承認セラレンコトヲ希望ス
次ニ議長ノ發言テ動議ノ作製ニ移リ次ノ決議ヲ採擇シタ

共和國上院ハ一九四〇年五月九日祕密會議ニ於テ總理兼外務大臣ノ説明ヲ聽取シタル後二票ヲ除キ政府信任ノ決議ヲ爲ス

(譯者註)外務大臣「ソルフ、イ、ムロ」氏ハ客年九月我帝大田中教授カ文化的任命ヲ帶ヒテ南米諸國ヲ一巡セル

際「リマ」市「サンマルコス」大學總長ノ職ニ在リ同教授ヲ歡待シ吳レタル人物ナリ

右附記ス

編注 五月九日分の議事録のみを採録し、四月五日分は省略

した。



1148

昭和15年5月24日

有田外務大臣より
在ペルー佐藤臨時代理公使宛(電報)

暴動事件に関し将来における再発防止と在留

邦人の生命財産の完全なる保護を求める公文

を改めてペルー政府へ提出し回答要求方訓令

付記 昭和十五年五月二十一日、亜米利加局第二課

起草

右公文の和文原案

本省 5月24日後4時30分發

第九三號

貴電第一五七號ニ關シ

一暴動事件ノ處理ニ付テハ貴電御來示ノ事情乃至ハ在留民

(付箋)

(欄外記入)

關係諸問題へノ影響ニ付慎重考慮ヲ要スル次第ハ當方トシテモヨク了解シ得ル處ナルカ從來ノ暴動ノ事例及現政府ノ態度勢力等ニ徴スルモ我方ニ於テ先方ニ對シ手加減ヲ加ヘ以テ其ノ好感ヲ維持シ事態ノ好轉ヲ期待スル事果シテ效果的ナルヤ頗ル疑問ナルヘク右ハ却而事件ニ對スル賠償等ヲ有耶無耶ナラシメ又國內問題ニ藉口シ今後在留民ニ對スル壓迫ヲ加重セシメ且之カ保護ニ付熱意ヲ減ゼシムルノ結果ヲ來スコト無キヲ保セス旁々後日ノ爲ニモ當方トシテ云フヘキ事ハ此際明確ニ先方ニ申入レ置ク事ト致度ク就テハ往電第八四號後段ノ次第二鑑ミ從來ノ申入レ乃至ハ先方ノ回答ト多少重複スル所アルモ北田公使歸任後同公使ニ於テ直ニ外務大臣ニ會見シ別電第九四號ノ公文ヲ手交セラレ之ニ對シ公文ヲ以テ回答ヲ要求セラレ度シ尤モ別電ノ字句乃至言ヒ廻シハ貴方ノ狀況從來ノ交渉經緯等ニ徴シ多少修正セラレ差支ヘナシ

二、右ニ對シ先方ハ既ニ我方要請ニ對シ回答濟ナリト稱スルコトアルヘキモ斯ル場合ニ於テハ從來ノ文書ハ暴動ノ際緊急ノ必要ニ應ジ其ノ都度斷片的ニ交換セラレタルモノナレバ事態解決ニ資スルニ充分ナラズ依而貴電第一四七

(編注二)

號公文ノ如キハ之ヲ返還スルコトトシ當方トシテハ別電第九四號ノ公文ニ對シ之ニ相當スル回答ヲ要請スルモノナル趣ヲ以テ應酬セラレ度シ

而シテ我方ニ於テ斯ル要求ヲ爲スニ當リ今次事件ニ對スル報復の見地ヨリ祕露政府ヲ困ラスカ如キ意圖毫毛無之コト勿論ニシテ當方トシテハ一圖ニ本事件ニ依リ將來ノ兩國關係ガ影響ヲ蒙ルコト無キ様事件ニ付後クサレ無キ満足ナル解決ヲ齎サンコトヲ期待スルモノナル次第充分先方ヲ納得セシメラレ度シ

三、先方ハ亦暴動問題ノ責任ニ付古屋事件乃至日本人會ノ行動ヲ持チ出シ實ニ暴動事件ト一般外國在留民取締問題(實質ニ於テ主トシテ本邦在留民ヲ目的トス)トヲ結付ケ來ル傾アル處元來我方在留民關係ノ事項ニ就テハ入國問題ニシテモ營業讓渡問題ニシテモ双方ノ主張ハ主張トシ事實上協議ニ應スル用意アリ但シ順序トシテ一先ト暴動問題ニ付一應結末ヲ付ケタル上充分先方ノ事情モ參酬シ

(前々)

(欄外記入)

從來ノ公文ハ意ヲ盡シ居ラズ其ノ儘ニテハ濟シ難シトノ意

(付箋)

先方公文カ古屋事件及日本人ノ行動等ニ言及シ居ル事實ヲ理由トシ之カ撤回ヲ求ムル事ハ先方ニ對シ我方ニ於テ痛イ處ヲ殊更回避スルナラントノ印象ヲ與ヘ却而逆效果ヲ來ス處アリヤニ思考セラル 澁澤

編注一 別電第九四号は、本文書付記の和文原案をスペイン語

に翻訳の上発電したものであり、省略した。

二 電報第一四七号は、昭和十五年五月十八日付イ・ム

ロペル―外務大臣より在ペルー佐藤臨時代理公使宛公

信和訳文(本書第1143文書付記)のスペイン語原文を電報したもの。

(付記)

本使ハ帝國政府ノ訓令ニ基ツキ左ノ通り閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有ス

(一)帝國政府ハ日秘兩國ノ國交ヲ益々敦厚ナラシメンコトヲ期シ銳意努力ヲ拂ヒ來リ「ペルー」政府及國民ノ我方ニ

對スル理解及友好的感情モ漸次顯著ナルモノアリト思料シ居タル際突如今次暴動ノ勃發ヲ見ルニ至リタルハ帝國政府ノ最モ意外且ツ遺憾トスル處ニシテ同時ニ右ノ報道ハ我國民ニ對シ驚愕ト共ニ極メテ不快ナル衝動ヲ與ヘタル次第ナリ。蓋シ既往ニ於テモ革命政變等國內治安ノ混亂ニ際シ貴國ニ於ケル我方在留民カ不當ナル暴行ノ犠牲トナリタルコトアルモ何等上記ノ如キ事情存在セザリシ際ニ於テ而モ警察力ノ最モ整備セリト思考セラルヘキ首府及ソノ附近ニ於テ如斯不祥事ノ發生ヲ見タルコトハ未タ會テ無之キ所ニシテ而モ今回ノ事件ハ單ニ日本人ノミヲ對象トシ計画的ニ行ハレタルノミナラス多大ノ財産上及身体生命上ノ損害ヲ被ルニ至ラシメタルノ事實ハ特ニ之ヲ重大視セサルヲ得サル所ナリ且ツ又本事件ノ發生ニ先タチ一部新聞雜誌ニ於テ在留邦人ニ對シ市民ノ反感ヲ挑發スルカ如キ虚構煽動的ノ記事カ數日ニ亘リ掲載セラレ我出先官憲ニ於テ之レカ危險性ヲ指摘シ貴國政府當局ノ注意ヲ喚起スルト共ニ即時適當取締方ヲ要請セルニモ不拘貴國官憲ハ此ノ要請ニ耳ヲ傾ケス爲ニ今回ノ悲シムヘキ事態ノ發生ヲ見ルニ至リタルハ「ペルー」國政府ニ

於テ事件予防上ノ措置ニ於テ重大ナル過怠アリタリト云ハサルヲ得ス更ニ二十三日正午過キ暴動勃發スルヤ時ヲ移サシテ爲サレタル我方累次ノ要求ニモ不拘「ペルー」政府ノ鎮壓措置不徹底ニシテ且ツ敏速ヲ欠キ終ニ事件擴大ヲ來サシメ十四日夕刻ニ至ル迄不逞ノ徒ヲシテ無辜ノ在留邦人ノ住宅店舗及其ノ身体ニ對シテ迄モ暴行ヲ恣ニセシメタルハ秩序アル國家トシテ其ノ責任ヲ免カレ得サルモノト云ハサルヲ得ス

(二)本暴動事件ニ關シ「ペルー」國駐在帝國代理公使ハ政府ノ訓令ニ依リ「ペルー」國政府ニ對シ既ニ抗議シ且暴動ノ彈壓抑制在留邦人身体及財産ノ安全ニ對スル保障ソノ被リタル損害ノ賠償等ニ付同國政府ト交渉スル處アリタルカ帝國政府ハ本暴動事件ニ對スルソノ主張及要求ヲ明確ナラシムル爲茲ニ改メテ「ペルー」國政府ニ對シ本事件ニ對スル抗議ヲ提出スルト共ニ左ノ通り申入ルルモノナリ

(三)「ペルー」國政府ニ於テハ暴動勃發スルヤ事件ノ發生ヲ悲シミ且遺憾ノ意ヲ表セラレ又之カ鎮壓ノ爲一應ノ措置ヲ採ラレタル次第アルモ帝國政府ハ「ペルー」國政府カ

右措置ヲ一層強化徹底的ナラシメ以テ苟モ今後暴動カ再發シ又ハ此ノ上地方ニ波及スルカ如キコトナキ様萬全ノ處置ヲ構セラルルト共ニ今後本邦在留民ノ生命財産ニ對シ完全ナル保護ヲ與フルコトニ付充分ナル保障ヲ要求スルモノナリ

尙今回ノ暴動ノ主謀者ノ檢舉及處罰並ニ當該官憲ノ責任查明ニ關シ「ペルー」政府カ迅速妥當ナル措置ニ出テラルルコトハ帝國政府ノ極メテ重視スル所ナルカ同時ニ帝國政府ハ在留民身体、生命、財産ノ被リタル損害ニ對シテハ「ペルー」國政府カ調査委員會ニ依ル最モ公平且速ナル調査ニ基キ完全且ツ充分ナル賠償ヲ支拂ハレンコトヲ要求スルモノナリ

(四)以上ノ要求ヲ提出スルニ當リ帝國政府ハ今回ノ事件ニ依リ從來兩國關係ヲ基礎ツケタル親愛及友好カ聊カナリトモ毀損セラレサランコトヲ切望スル次第ヲ茲ニ確言スルト共ニ同様ノ希望ヲ頒ツモノト信スル貴國政府ニ於テハ帝國ノ正當ナル權益擁護上ノ必要ニ出テタル以上ノ我方要求ニ對シ充分ノ満足ヲ與ヘラレ以テ不快ナル事件ニ對シ速カニ圓滿ナル解決ヲ齎ラサレン事ヲ期待スルモノナ

ルコトヲ附言ス

編注 本文書はスペイン語に翻訳の上、昭和十五年五月二十

四日発有田外務大臣より在ベルー佐藤臨時代理公使宛
電報第九四号として発電された。

~~~~~

1149

昭和15年5月27日 在ベルー北田公使より  
有田外務大臣宛(電報)

暴動事件に関する諸問題を迅速かつ誠意をもつ

て解決するようベルー外相へ要請について

リマ 5月27日後発  
本省 5月28日後着

第一七〇號

<sup>(1)</sup> 貴電第九三號ニ關シ(里馬市排日暴動ニ關スル件)

一、二十七日外務大臣ニ面會本件諸問題ハ速ニ誠意ヲ以テ解  
決シ今後ノ國交ニ累ヲ貽ササルコト急務ナリト述ヘタル  
ニ對シ大臣ハ無智ナル民衆カ一部煽動ニ乘リ貴使御不在  
中斯ル事件ヲ起シタルハ眞ニ申譯無シ政府モ速ニ問題ヲ  
解決シテ國交ニ支障ナカラシメタキ所存ナリト述ヘタル

ニ付御訓令ニ依リ後刻新公文(貴電中段ニモ照シ目下推  
敲中)ヲ提出書面回答ヲ要求スヘキ旨告ケタル處先方モ  
之ヲ了承セリ

二、賠償調査委員長ハ本使トモ親交アル當國一流ノ公平ナル  
實業家ナルカ早速之ト會見基礎書類ヲ提出ノ上一刻モ速  
ニ調査方申入タル處先方ハ右方針ヲ以テ既ニ委員會ヲ開  
キ事務ニ着手セル趣ニ付事務長ト細目ニ付交渉中ナルカ  
外務大臣ニ對シテモ重ネテ委員長ニ連行方命スル様取計  
ヒ置ケリ

<sup>(2)</sup> 三、新渡航者禁止令等ニ付外務大臣ニ對シ御來示ノ趣嚴重申  
入レ斯ル法令ハ一層日本ヲ刺戟シ國交上惡影響アルニ付  
速ニ廢止方要求シタル處先方ハ貴大臣ノ御來電ニモ接シ  
居レルカ本令ハ一時人心ヲ鎮ムル目的ニ出テ猶太人問題  
モ其ノ大原因ナルカ一般的ニテ決シテ日本人ノミヲ目標  
トセルニ非ル點ハ吳々モ御諒解相願度ク右ハ人口調査齊  
マハ成ルヘク速ニ停止スヘシト答ヘタリ

四、政府ハ邦人保護ニ特ニ注意シ事態ハ舊ニ復セリ本件處罰  
トシテ「アブラ」統領「アヤ・デ・ラ・トレ」實弟及首  
魁三名ノ外黨員五十名並ニ共產黨首領「プリモ、デ、バ

ビネス」外黨員五十六名ヲ流刑又ハ投獄シ右兩黨彈壓ノ方針ヲ決シ「ガダルベ」中學生七十名教師八名大學生十六名ヲ放校シ警察署長二名ヲ交送シ警察部内ヲ調査中ナルカ内務大臣ハ辭任ヲ申出タルモ震災ノ爲慰留サレタリ尙「グラフアコ」ハ休刊ヲ命セラレ「クロニカ」ニハ往電第一五〇號ノ社説掲載ヲ命シタルカ各新聞ノ論評モアリ一般智識階級宗教界等ノ被害日本人ニ對スル同情ハ漸次高マリツツアリ

1150

昭和15年5月31日

在ベルー北田公使より  
有田外務大臣宛(電報)

暴動事件に関するわが方公文をベルー外相へ  
手交し速やかなる回答要求について

リマ 5月31日午後発  
本省 6月1日前着

第一八一號

往電第一七〇號(一)二關シ

三十日重ネテ外務大臣ニ面會公文ヲ手交シ(犯人及責任者處罰ノ點ハ既ニ大規模實行中ニテ内政上モ極メテ機微ナル

問題ナルニ顧ミ慎重考慮ノ結果暫ク之ニ觸レサルコトトセリ)前回ノ説明ヲ繰返シ右ハ本事件ヲ解決シ國交ヲ軌道ニ乗スル基礎トナルモノニ付速ニ満足ナル書面回答ヲ得度ク尙曩ノ貴方公文中ニハ古谷問題<sup>(風々)</sup>ニ言及シ居ル處右ハ本邦人ノ保護(大統領領情報部長ノ内話ニ依レハ政府ハ自己存立ノ上ヨリ見ルモ斯ル事件ヲ繰返サスコトハ絕對ニナシトノコトナリ)竝ニ損害賠償ノ件ニ對シ一部責任ヲ轉化スル意味ニモ解サルル惧アリ我方ハ本件ハ別箇ノ問題トシテ處理スヘキモノト信スルニ付此ノ點回答ニ當リ注意アリタキ旨嚴重申入レタル處同大臣ハ前回本問題ニ觸レタルハ事件ノ經過ヲ説明スル爲ニテ決シテ責任ヲ回避スル意思ニハ非サリシ旨辯明シ文書ニ依ル回答方ヲ約セリ

尙當國側ハ本件カ國辱ニテモアリ内外ニ對シ一切ノ報道ヲ禁止シ居レル處三十日前記往電ノ一部内容ニ關スル本省ノ御發表U、Pニ依リ當地支店宛電報セラレタルカ右ニ關シ三十一日外務大臣ヨリ日本國內ノ御事情ハ拜察スルモ外務大臣及貴公使館談話内容等ノ御發表ハ御控へ相願タキ旨懇請アリタルカ右ハ先方今後ノ回答振及各種交渉ニモ微妙ノ影響ヲ及スヘキニ付此ノ上トモ御留意相仰度シ

昭和15年6月18日

在ベルー北田公使より  
有田外務大臣宛(電報)暴動事件に関するわが方公文へのベルー政府  
回答受領について

付記 昭和十五年六月十一日付イ・ムーロペルー外務

大臣より在ベルー北田公使宛公信和訳文

右ベルー政府回答

リマ 6月18日午後

本省 6月19日後着

第一九九號

往電第一九四號ニ關シ

十一日附外務大臣ヨリ別電第二〇〇號(編注)ノ通り回答アリ御査

閱ノ上何分ノ儀御申越シ相成度シ

編注 別電第二〇〇号は省略。六月十一日付ベルー外相回答

の和訳文を本文書付記として採録。

(付記)

祕露國外務大臣ヨリ北田公使宛ノ公文(譯文)

(以書翰云々)

在留日本臣民ニ對シ當首府ニ於テ發生セシ事件ニ關聯シ佐藤舜氏カ當省ニ寄越サレタル書翰ヲ確認サルル五月二十八日附貴翰第二十七號ヲ受領セルコトヲ茲ニ閣下ニ通告申進スルノ光榮ヲ有シ候

閣下ハ貴國政府ノ名ニ於テ貴國人カ被リタル損害ニ對スル賠償ヲ要求セラルルト共ニ日本在留民ニ對シ挑發的ト思料セラレタル當市發行新聞雜誌ノ排日記事取締リノ爲ニ手段採用方ヲ豫テ當省ニ要請セラレタル旨ヲ本大臣ニ想起セラレ候

成ル程閣下ハ右ノ發刊物ニツキ本大臣ノ注意ヲ喚起セラレタルカ本大臣ハ右ニ關シ祕露政府ハソノ内容ヲ遺憾トスト雖モ之レヲ阻止スル法律上ノ方法ヲ有セサル旨併ニ右ハ古屋問題ニ加フルニ日本在留民カ都會及地方ニ於テ小商業及勞働ヲ殆ント獨占シ内國人ヲ驅逐シツツアル事實カ原因トナリ市民間ニ醞釀シツツアル不平ヲ以テシタル雰圍氣ニ依リ終ニ誘發セラレタルモノナルコトヲ閣下ニ申述ヘ置キ候。貴國人カ請求スル損害賠償ニ關シ閣下ノ申出テラレタル要求ニ關シテハ祕露國政府ハ前記ノ機會ニ日本人ノ被リタル

損害ヲ調査評價スルノ任務ヲ有スル委員會ヲ既ニ任命セル趣ヲ通告申進候尤モ右ノ趣ハ委員會ノ組織ノ形式通報旁々過日貴公使館ニ既ニ通告申進置候

我政府ハ貴國政府同様日祕間ニ存在スル友好關係ノ維持ヲ希望スルモノニシテ右關係ハ貴國ノ通り今回貴國政府要求ノ原因トナリシ不慮ノ事件ニ依リ暗影ヲ投セラルルコトハ無之カルヘク候

本大臣ハ此ノ機會ニ於テ重ネテ閣下ニ敬意ヲ表シ候

1152

昭和15年6月25日

有田外務大臣より  
在ベルー北田公使宛(電報)

暴動事件に関するペルー政府回答は不満足に

つき撤回を求め改めて賠償支払いおよび再発

防止に関する明確な保障取付け方訓令

本省 6月25日午後4時50分發

第一二二號

貴電第一九九號ニ關シ

(一) 回答文ハ全体ヲ通シ誠意ヲ欠キ其内容亦當方公文ノ回答タルノ体ヲ爲サス特ニ先方カ當方申入事項ノ大半ヲ默殺

シ乍ラ一部ノ點ノミヲ捉ヘ古屋問題ト在留民ノ活動態樣ニ殊更言及セルハ貴電第一八一號中段ノ如ク曩ニ貴官カ此點ニ關シ豫メ外務大臣ニ注意ヲ與ヘ置キ先方ニ於テモ之二對シ前回本問題ニ觸レタルハ事件ノ經過ヲ説明スル爲ニテ責任ヲ回避スル意思ニアラスト弁明セル處ニモ反シ極メテ不當ナル態度ト言ハサルヘカラス

(二) 元來當方ニ於テ本件公文ヲ提出シタルハ往電第九三號ノ通り先方ヲシテ速ニ誠意アル態度ヲ表明セシメ事件ノ明確ナ解決ヲ齎ラシ以テ今後ノ國交ニ禍根ヲ殘サザラシメントスル主旨ニ他ナラサル處先方回答ニハ毫モ斯ル意嚮反映シ居ラス却而古屋事件等ニ藉口シ責任回避ノ傾向見ユルノミナラズ今後ノ保障ノ點ニハ全然言及セス又賠償ニ付テモ委員會任命ノ點ノミヲ擧ケ賠償支拂ノ約束ヲ爲シ居ラサル等全体トシテノ回答振リ從來ノ態度ニ比シ寧ロ一步ヲ退キタリト云フヘク我方トシテ到底ニ満足シ得サル次第ナリ

(三) 就テハ貴官ハ至急外務大臣ニ會見シ右ノ次第ヲ更ニ篤ト申入レ帝國政府トシテハ到底本公文ヲ受諾シ難キ旨ヲ明示セラレ之ヲ撤回セシムルト共ニ我方申出ノ諸點、特ニ

ソノ最モ重要視シ居ル損害賠償ノ支拂及今後ノ保障ノ點  
ニツキ明確ナル意思表示ヲ爲セル回答ヲ取付ケラルル様  
萬全ノ御努力相成度シ

(四)尙古屋事件及在留民問題ニ就テハ往電第九三號(三)ノ通り  
暴動事件トハ別個ノ問題トシ先ツ暴動事件ニ付結末ヲツ  
クル様取計方肝要ニテ從而前段(三)ニ依リ改メテ先方ヨリ  
取付クヘキ回答文中ニハ此ノ點ニ觸レシメサル様極力御  
努力相成度之ガ爲必要ニ應シ兩問題ニ關スル先方ノ解釋  
カ如何様ナリトスルモ暴動ニ關スル先方責任ハ之二依リ  
毫モ輕減セラルルモノニ非ルノ理ヲ充分說示セラレ度ク  
右御含ミ迄

1153 昭和15年6月26日 有田外務大臣より  
在ベルー北田公使宛(電報)

暴動事件の処理に当たってはわが方抗議および要求を貫徹するよう尽力方訓令

本省 6月26日後8時15分發

第一二四號

往電第一二二號ニ關シ

一、暴動事件處理方針ハ累次往電ニ依リ既ニ御承知ノ通り我  
方トシテハ本事件カ我國民ニ對シ多大ノ衝動ヲ與ヘ且今  
後ノ中南米對策ニ甚大ナル影響ヲ與フル點ヲモ考慮シ先  
方ノ責任ハ飽ク迄之ヲ明確ナラシメ以テ我方ノ公正ナル  
要求ノ貫徹ヲ計ルニアル次第ニテ苟モ先方ヲシテ有耶無  
耶ニ終始シ得トノ希望ヲ與フルカ如キコト之無キ様總ユ  
ル機會ニ我方ノ態度ヲ充分「インプレス」セラレ度此段  
篤ト御配慮相成度シ

二、從來共先方ノ出方ハ口頭ノ場合ト文書ニ依ル場合トニ格  
段ノ相違アリ貴電第一七〇號及同第一八一號ノ外務大臣  
云ヒ分ト同第二〇〇號回答トノ懸隔ノ如キ其ノ著ル數キ  
例ナルカ蓋シ先方トシテハ内政上ノ理由及現政府ノ弱体  
ヲ楯ニ何トカシテ責任回避ヲ計ラントノ下心アルヤニ推  
セラルル處我方トシテ要求スル處ハ事件ノ公正ナル解決  
ニ在ルヲ以テ例ヘハ先方回答文ノ發表振リノ如キハ當方  
トシテ先方ノ立場ヲ考慮シ手加減ヲ加フル等ノ事ハ充分  
考慮シ得ヘク唯之カ爲名分ヲ枉ゲ解決ソノモノヲ曖昧ナ  
ラシムルハ到底容認シ得ザル次第ナリ

三、賠償金ノ速カナル取立ハ貴電第二〇一號冒頭罹災者救助

ノ爲ニ必要ナルノミナラス事件解決ソノモノノ建前ヲ明  
ニスル爲ニモ望マシキ次第ニ付賠償委員會ノ仕事ハ出來  
得ル限り之ヲ促進セシメ以テ速ニ現實支拂ヲ爲サシムル  
様工作セラレタシ

四、累次貴電ニ依ルモ祕露國內部ニ於テモ本暴動ヲ遺憾トス  
ル聲高キ模様ナルニ付貴官ニ於テモ適當ノ筋ニ働キ掛ケ  
以テ公正ナル輿論ヲ助長シ政府ニ對シ側面ヨリ解決ヲ促  
進セシメラルル様御配慮相成度シ

1154

昭和15年7月13日 有田外務大臣より  
在ペルー北田公使宛(電報)

**暴動事件に関するペルー政府再回答はほぼ満  
足であるが損害賠償の迅速履行などをさらに  
申入れ方訓令**

別電 昭和十五年七月十三日發有田外務大臣より在

ペルー北田公使宛第一四二号

右わが方申入れ案

付記 昭和十五年七月三日付イ・ムーロペルー外務

大臣より在ペルー北田公使宛公信和訳文

右ペルー政府再回答

本省 7月13日後3時50分發

第一四一號

貴電第一九九號ニ關シ

祕國政府ノ回答文ハ本邦側ノ要求事項ヲ大体満足サセ居ル  
モノト認ムルモ尙當方トシテハ(イ)賠償ノ約束ガ速ニ履行サ  
ルルコトヲ期待シ居ルコト(ロ)先方來翰中古屋事件ニ言及シ  
又在留民ガ祕露人ヲ排除シ云云ト述ヘ居ルニ對シテハ右ガ  
先方ノ一方的の見解ニ過ギズト認メ居ルコト(今後入國問題  
營業問題等ニ關シ交渉ノ爲メモアリ先方來翰ノ言ヒ分ニ對  
シ帝國政府ガ其ノ儘同意セリトノ誤解ヲ與ヘザル爲ナルガ  
同時ニ此ノ問題ニ付キ論争ノ端ヲ開クコトハ避ケ度ク考ヘ  
居ル次第ナリ)(ハ)排日記事ノ取締ニ付法律上ノ手段ナシト  
ノ辯解ヲ其ノ儘默過スル時ハ今後此種惡宣傳ニ對シ爲スコ  
トアルベキ我方要求ニ付キ同様ノ逃口上ヲ與フル惧アルニ  
付右ニ關スル當方ノ見解ヲ留保スルコト  
以上三點ヲ更ニ申入レ置ク爲別電第一四二號公文ヲ貴官ヨ  
リ外務大臣ニ手交セラレタク尙右ニ對シテハ先方ヨリ「ア  
キユゼ、レセプシヨン」ヲ取付ケ置カレ度シ

(別電)

第一四二號

本省 7月13日後3時50分發

以書翰啓上致候陳者過般當地及其ノ附近ニ於テ發生シタル在留日本人ニ對スル暴動事件ニ關シ五月廿八日附拙翰第二十七號ニ對スル回答タル七月三日附貴翰受領致候右貴翰ニ於テ祕露國政府ハ暴動事件ノ發生ヲ悲シミ同時ニ民衆ノ暴動ニ對シ貴大臣ノ遺憾ノ意ヲ改メテ表明セラルルト共ニ本事件ニ依リ本邦人ノ蒙リタル損害ニ關シテハ祕露國政府ハ損害調査委員會ヲ以テ之ガ妥當ナル檢討評價ヲナシタル上之ヲ賠償スルコトヲ承諾セラレ又將來ノ保障ニ關シテハ本邦人ニ對シ外國人及内國人ト同様ニ憲法上ノ保障ヲ許與スル旨ヲ明示セラレタルガ右ハ帝國政府ガ此ノ點ニ關シテ爲シタル要求ニ合致セルモノト認メ本使ハ帝國政府ノ名ニ於テ右御申越ノ次第ヲ諒承スルト共ニ暴動罹災民ハ人道其上ノ救濟ヲ遷延シ得ザル程急迫セル現狀ニ在ルニモ鑑ミ損害調査委員會カ出來得ル限り速カニ其ノ任務ヲ完了シ且祕露政府ガ之ニ基キ遲滯ナク賠償ノ支拂ヲ實行セラルルコトヲ

期待シ居ルモノナル次第ヲ附言致候

而テ貴翰ニ於テ閣下ハ或ル種雜誌竝ニ新聞ニ於ケル排日記事ガ古屋事件竝ニ本邦在留民ガ里馬市竝ニ諸地方ニ於テ祕露人ヲ排除シ小商工業ヲ殆ンド獨占シ來レルコトニ起因シ釀成セラレタルモノタルヲ否定シ得ズト述ヘラレタルカ本使ハ右ハ單ニ本記事ニ關聯スル閣下ノ御見解(Your Excellency's own view)ノ表示ニ過ギザルモノト了解シ居リ從而本使ハ此ノ點ニ關シ茲ニ改メテ右見解ニ觸ルルノ要ナキモノト思考致候然ルニ閣下ハ貴國政府ハ本記事ノ内容ヲ遺憾ト認メラレタルニ不拘之ガ阻止方ノ我方要請ニ對シテハ貴國政府トシテ差止ムベキ法規上ノ手段ノ存在セザリシ旨ヲ指摘セラレタル處本使ハ閣下ニ於テモ右記事カ在留邦人ノ安寧ニ重大ナル影響ヲ及ボスノ處アリタルコトヲ認メラレタルモノト了解スルト共ニ或種ノ法規上ノ手段ノ存在セザリシ爲スル處アル記事ヲ阻止シ得サリシコトハ外國人ノ生命財産ノ保護ニ關スル當該國ノ責任ヲ輕減スルモノニ非ズト思考セザルヲ得ザル次第ニシテ本使ハ茲ニ此點ニ關シ重ネテ閣下ノ注意ヲ喚起スルモノニ有之候以上申進旁(以下末文略)

## (付記)

七月三日附祕露國外務大臣ヨリ在祕北田公使宛公文(邦譯)  
拜啓以書翰致啓上候

陳者本大臣ハ當首府ニ於テ在留日本人ニ對シ行ハレタル事  
件ニ關シ貴國臨時代理公使佐藤舜氏カ當省ニ爲サレタル口  
頭抗議ヲ正式化セラルル本年五月二十八日附貴信第二十七  
號ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

閣下ハ貴國政府ノ名ニ於テ貴國人ガ蒙リタル損害ニ對シ賠  
償ヲ請求セラルルト共ニ當首府ノ或雜誌及新聞ガ貴國在留  
民ニ對シナシタル教唆ノ思惟セラルル論戰策動阻止ノ措  
置ヲ取ルヘキ様當省ニ要請アリタル事ハ本大臣ノ夙ニ承知  
スル所ニ有之候

右ニ關シ先ヅ本大臣ハ閣下ニ對シ、祕露國政府ハ本件事件  
ノ發生ヲ悲シミ同時ニ又民衆ノ暴動ニ對シ本大臣ノ遺憾ノ  
意ヲ表明スルモノナル次第ヲ更メテ申進候、右民衆ノ暴動  
ハ極メテ突發ノ二行ハレ之ガ阻止處置ヲ講ズルコト不可能  
ナリシ次第ニ有之候尤モ事變發生スルヤ直ニ之カ對應措置  
方指令シタルモ下級警察吏ガ妥當適切ニ右指令ヲ履行セザ  
リシモノノ如ク、民衆ノ暴行ヲ阻止シ得ザリシ次第ニ有之

候

閣下ハ正ニ前掲ノ新聞、雜誌記事ニ付本大臣ノ注意ヲ御喚  
起相成リ候處、既ニ御説明申上候通り政府トシテ此種記事  
ヲ差止ムヘキ法規上ノ手段ナク且本件記事ノ内容ニ付テハ  
政府トシテ遺憾ト存スルモ右記事ハ古屋事件竝貴國在留民  
ガ當市竝ニ諸地方ニ於テ内國人ヲ排除シ小商工業ヲ殆ド獨  
占シ來レルコトニ歸因シ釀成セラレタルモノタルコトハ否  
定シ得ベカラズト存ジ候

次ニ貴國人要求ノ損害賠償ニ關シ閣下御來示ノ要求ニ關シ  
テハ祕露國政府ハ豫メ之ガ妥當ナル檢討評價ヲナシタル上  
其ノ損害ヲ賠償スルコトヲ承諾スル旨重ネテ閣下ニ通報申  
上候之カ爲メ本事件ニ付貴國民ガ蒙リタル損害調査及評價  
ノ任務ヲ有スル委員會既ニ任命セラレ候而シテ右委員會ガ  
如何ナル形体ニ於テ組織セラレタルカニ付テハ閣下ガ館長  
タル貴公使館ニ既ニ通知シ置キ申シ候

祕露國政府ハ貴國人ニ對シ、他外國人竝内國人ト同様ニ憲  
法上ノ保障ヲ供與シ且閣下ノ御希望ノ通り日本及祕露兩國  
間ニ存在スル友交關係ヲ保持セントスルノ希望ヲ有シ候、  
右ノ友交關係ハ閣下御宣明ノ通り貴國政府抗議ノ原因ヲナ

シタル偶發的事件ニ依リ損傷セラルルモノニ無之候

1155 昭和15年7月23日 吉沢亜米利加局長より  
淵上(房太郎)沖繩県知事他宛

ペルー暴動事件ならびに震災罹災邦人の救護  
帰国について

米二普通合第三三五二號

昭和拾五年七月廿三日

外務省亞米利加局長 吉澤 清次郎

沖繩縣知事 淵上 房太郎殿 (以下宛先省略)

祕露排日暴動竝ニ震災罹災邦人ノ救護歸國ニ

關スル件

本年五月祕露ニ勃發セル排日暴動竝ニ大震災ノ罹災邦人ニシテ病氣、老齡等ノ爲メ再起ノ見込無キ者竝ニ再起ノ手足纏トナル家族ニシテ眞ニ己ムヲ得ザル者ヲ救護歸國セシムルコトトシ一行ハ去ル七月十一日祕露國カヤオ港出帆ノ平洋丸ニ乗船來ル八月十日横濱着ノ豫定ナル處右歸國者ノ府縣別人數左ノ通りナルニ付右御參考迄通知ス

沖繩縣人 大人四六名 子供(十二才以下)一二二名

福岡縣人 〃 三名 〃 六名  
福島縣人 〃 二名 〃 五名

熊本縣人 〃 一名 〃 四名

和歌山縣人 〃 一名 〃 二名

鹿兒島縣人 〃 一名 〃 八名

山梨縣人 〃 一名 〃 三名

東京府人 〃 ナシ 〃 四名

滋賀縣人 〃 二名 〃 二名

佐賀縣人 〃 一名 〃 ナシ

以下ハ沖繩縣知事宛ノ公信ニノミ記載ノコト

「追而沖繩縣人歸國後ノ善後處置ニ付キテハ拓務省トモ打合セノ上貴縣ト可然連絡ノ豫定ナリ右爲念申添フ」

編注 本信は、沖繩、福岡、福島、熊本、和歌山、鹿兒島、

山梨、東京、滋賀、佐賀の各府県知事宛に発信され

た。

1156 昭和15年7月26日 在ペルー北田公使より  
松岡外務大臣宛(電報)

暴動事件に関し損害賠償の迅速履行などをへ  
ルー政府へ申入れについて

リマ 7月26日後発  
本省 7月27日前着

第二五一號

貴電第一四一號ニ關シ(排日暴動ニ對スル我方抗議ニ對スル先方回答ニ關スル件)

係官頗ル多忙ノ爲翻譯手間取リタルカ二十二日附公文ヲ作成御來示ノ次第ヲ説明ノ上手交シタル處外相ハ賠償ニ關スル御申入ハ素ヨリ當然ノコトナリ又新聞取締ニ付テモ政府トシテ出來得ル手段ハ執リ來リ居レリ先般御申入ノ結果モ御承知ノ通りナリ(「グラヒコ」ハ引續キ禁止サレ其ノ他ニモ排日記事ナシ)何レ公文ヲ熟讀致スヘシト答ヘタリ  
尙次官ニモ同様話シ「アクエゼ、レセブシヨン」ヲ取付ケタキ旨申入レタル處同様ノ場合ニ當國カ行ヒ得ル慣例ニ從ヒ公文研究後貴意ニ沿フ爲事前ニ御協議ヲ要スル點有ラハ右様取計フニ付御含ミアリタキ旨語レリ

1157

昭和15年11月20日  
在ペルー淀川(正樹)臨時代理公使より  
松岡外務大臣宛(電報)

ペルー政府に対し排日宣伝取締りおよび損害賠償の迅速履行を申入れについて

リマ 11月20日後発  
本省 11月21日後着

第三四七號

(一)<sup>(1)</sup>五月ノ暴動以後モ數回ニ亘リ邦人店舗襲撃計畫アリタル趣ニテ祕露政府ニ於テハ不穩ノ兆認メラルル場合ニハ我方ノ要請ニ依リ其ノ都度警備ヲ嚴重ニシ兎モ角再發防止ニ努メ居ル模様ナルモ一般民衆ノ對日空氣ハ未タ好轉ノ様子全然ナキノミナラス帝國ノ獨伊樞軸參加及米國大統領ノ當選以來却テ惡化セルモノノ如ク觀測セラレ「アラ」黨機關紙トシテ祕密發行中ノ「ラツリブナ」紙ハ暴動後モ引續キ出現シ每號惡辣ナル排日ト政府攻撃ノ記事ヲ滿載シ居リ又激越ナル文句ヲ連ネタル排日「ビラ」ハ里馬「カヤオ」「ワンカヨ」各地ニ於テ連日撒布セラレ民衆ノ對日反感ヲ煽動シ

<sup>(2)</sup>一般情勢ハ五月暴動直前ニ彷彿タリト謂ハレ得ヘク在留

民ハ不安ニ驅ラレ居ル現状ナリ警察當局ニ於テハ右秘密文書ノ出所探索中ナルモ未タ突止ムルニ至ラサル旨語り居レルカ何レモ「アブラ」黨ノ所爲ト推定セラレ且其ノ背後ニハ米英支那猶太(主トシテ米)ノ策動アルニアラサルヤヲ思ハシム右ニ鑑ミ本官ハ外務大臣ニ對シ着任ノ挨拶ニ於テ祕露發刊物ノ取締ト賠償履行ノ二點ヲ特ニ強調シ前者ニ關シテハ排日「ピラ」一括添付文書ヲ以テ至急處置方ヲ要請シ置キ一方警察當局トハ不斷緊密ナル聯絡ヲ執リ居レリ

(二)<sup>(3)</sup>賠償問題ニ關シテハ北田公使ヨリ出發前遅クトモ十一月  
中ニハ賠償金受領ノ見込アル旨被害者ニ説明セラレタル  
趣ヲ以テ被害者ハ連日當館ニ殺到シ來レル状態ナルト共  
ニ被害者中六、七〇家族ハ目下經濟的ニ行詰リ居リ眞ニ  
同情ニ堪エサルモノアリ之カ至急救濟方考慮ノ必要モアル  
ニ付賠償委員會事務總長ヲ往訪シ事務進捗振ヲ質問シ  
タルニ參考資料不備等ノ爲査定ニ多大ノ困難ヲ感シツツ  
アリ完了迄ニハ少クトモ二箇月以上ヲ要スル旨語りタル  
ニ付(往電第二四四號ニ參照)成ル可ク急速取運方ヲ依  
賴シ一方外相ニ對シテハ被害者ノ窮狀ヲ訴へ

委員會ニ督促方ヲ依頼シ又出來得レハ被害者救濟ノ爲内  
金ニテモ至急支拂ハレタキ旨申出テタルニ外相ハ調査完  
了次第賠償額ハ今期議會ニテモ提出スヘキ意嚮ナル旨語  
レリ因ニ議會ハ十二月末日迄延期セラレタリ尙本賠償問  
題ニ關シテハ對日一般空氣議會内ノ情勢國際政局ノ推移  
祕露ノ財政狀態等附帶的ニ考慮ノ要アル處何レモ目下本  
件ニ不利ナル状態ニアレハ之カ實行迄ニハ多大ノ努力ト  
相當ノ時日ヲ要スヘキモノト觀測セラレ

1158

昭和16年5月1日

在ベルー坂本(龍起)公使より  
松岡外務大臣宛(電報)

暴動事件の賠償をめぐるペルー蔵相との会谈

内容報告

付記 昭和十六年九月二十一日付、作成局課不明

「祕露國ニ於ケル排日暴動損害賠償金取立交渉  
経緯」

リマ 5月1日後発  
本省 5月2日前着

第九一號

賠償金問題ニ關シテハ過般外務大臣ニ篤ト我方ノ意嚮ヲ傳  
 へ急速解決ヲ促シ置キタルカ其ノ後外務省側ヨリ具體的ノ  
 諸點ニ付テハ大藏大臣ト交渉ヲ進メラレ度旨申越セルニ付  
 同大臣ト面談セル處

(一)同大臣ハ被害調査委員ト打合せノ結果ナリトテ曰ク今日  
 迄ニ査定ヲ終了セルハ二百三十件ニ過キス(査定額ハ大  
 體四割)右ハ査定容易ノ分ヲ先廻シニシタル次第ナレハ  
 今後ノ分終了迄ニハ尙相當日子ヲ要スヘク而モ被害者ノ  
 申立ニ依リ再審査ヲ行フ必要アルヘキコトヲ豫想セハ事  
 務完了迄ニハ數年ヲ要スヘシ云々事實委員會ハ今日迄無  
 給ニシテ困難且煩瑣ナル査定ニ今ヤ冷淡不熱心トナリ居  
 リ今後其ノ査定ニ押問答ヲ繰返スコトトナレハ大臣ノ言  
 フ通りナル上内閣更迭ヲ見ハ結局有耶無耶ニナル處サヘ  
 アリ

(二)大臣ハ更ニ大藏省トシテモ金額ノ決定ヲ見サレハ支拂案  
 立チ難ク外務大臣ハ不得要領ノ人ニテ埒明カサルヘク本  
 件ハ祕露トシテモ恥シキ案件ナレハ至急解決シ以テ兩國  
 國交ノ増進ニ資シ度キニ付此ノ際複雑ナル委員會ノ調査  
 ヲ打切り百萬「ソール」程度ヲ一括日本側ニ交付スルコ

トニ了承願ヘサルヤ又支拂方法ニ關シテハ財政窮乏ノ現  
 狀ニ鑑ミ政府ニ於テ取扱ヒ得ル物資例ヘハ羊毛、鹽、砂  
 糖等ヲ引取ラルルコトヲ得ハ好都合ナル旨切出シ來レリ

(三)右ニ對シ元來我方トシテハ損害額ノ要求申請ハ實額ヲ極  
 力正直ニ見積ラセタル經緯モアリ且間接損害ノ申請ハ避  
 止セシメ居ルコトニモアリ政治的考察ヲ加ヘ多少讓歩ハ  
 已ムヲ得ストスルモ多大ナル犠牲ヲ拂ハシムルコトハ問  
 題ニナラスト應酬セルニ大臣ハ從來貴方了解ノ方針ニ依  
 リ委員會ノ査定終了ノ上被害額ヲ議會ニ提出シ

其ノ承認ヲ求ムルコトトスレハ御承知ノ如キ政情下ニテ  
 ハ議會無事通過ノ見當立タス却テ議論百出紛糾ヲ來ス惧  
 レモアリ成ルヘク議會提出ヲ避ケ爾後ニ於テ報告ノ程度  
 ニ止ムルコト得策ナルヘク本件ニ付テハ祕露側ノ責任ハ  
 之ヲ自認スルトハ謂ヘ或點ニ於テハ不可抗力ニ等シキ災  
 難ナレハ被害者ニ於テモ諦メテ貰フヨリ外ナカルヘシト  
 謂ヘルニ付次回當方ヨリ對案ヲ提出スヘシトテ引取タリ  
 元來古屋事件カ日本領事ノ主權侵害ナリト傳ヘラレ且偶々  
 事件直後古屋雇傭ノ祕露人女カ死亡シタルヲ捉ヘ日本側ノ  
 致死ナリト新聞ニ書立テラレ一般下層民ノ對日反感ヲ煽ル

ト共ニ議會祕密會議ニ於テ在祕日本人問題殊ニ右古屋問題ニ絡マル日本領事及日本人會ノ行動カ論議ノ的トナリタル事實等ハギヨウジ關係當局殊ニ下級警察官ヲシテ從來革命等ノ場合掠奪ニ馴レ勝ちノ下層民取締ノ態度ニ眞摯ヲ缺カシメタル感ナキニアラス

右ニ鑑ミレハ今後賠償金支拂法案カ議會ニ提出セラルレハ又々客年ノ如キ不穩當ナル論議ヲ蒸シ返シ之カ承認ハ樂觀ヲ許ササルノミナラス議會ノ論議ハ一般輿論ニモ反響シ折角多少ニテモ好轉シツツアル對日空氣ヲ逆轉セシムヘキ處モアリ出來得ヘクハ本件ハ議會ノ干渉ヲ避ケシムルヲ得策トスヘク或ハ歐洲戰局ノ推移ヲ待チ我方有利ノ國際狀勢ヲ利用シ高壓的態度ニ出ルヲ得ヘシトスル見方モアルヘシト雖結局當國財政狀態及從來ノ事例ニ徴シ此ノ際急速ニ解決シ我方ニ於テ現金又ハ物資ヲ受取り置クコト大局上利益ナルヘク今後ノ交渉上本使心得迄ニ本省ノ意嚮御回示相煩度シ尙先方ハ大體前記括弧内ノ比率以下ヲ基調トシタキ底意ニ察セラレ若シ右ニ落付クノ外ナシトセハ一方被害者ヲ納得セシムルハ是亦容易ニ非ス已ムヲ得サレハ被害者ニ對スル低資融通等豫メ關係當局ニ於テ御研究置キ相煩度シ

## （付記）

一六、九、二一

祕露國ニ於ケル排日暴動損害賠償金取立交渉経緯

今次歐洲戰爭勃發以來頓ニ積極化セル「ラテン、アメリカ」諸國ニ對スル米國ノ反樞軸工作ノ影響ヲモ受ケ祕露國ニ於ケル對日空氣ハ近年漸次惡化ノ傾向ヲ辿リ議會等ニ於テモ邦人移民ガ第五部隊トシテ祕露國ノ安寧ヲ脅威シツツアリトカ又邦人ハ小商工業ヲ殆ンド獨占シテ祕露人ヲ壓迫シタル社會問題ヲ惹起シツツアリ等ノ排日的議論行ハレ居タルガ共產黨系團體タル「アブラ」黨ハ此ノ空氣ニ乗ジ排日ヲ反政府ノ政治運動ニ利用セントシ熾烈ナル排日宣傳ヲ行ヒタル爲之ニ感染セル里馬市中等學校上級生ノ一部ハ客年五月十三日里馬市内ニ於テ排日示威運動ヲ行ヒ之ニ群衆ガ參加シテ暴動化シタル處端シナクモ暴民ハ二日二亘り里馬「カリアオ」兩市及其ノ附近ニ於ケル邦人小商店及住宅ヲ襲ヒ掠奪ヲ恣ニセリ

右事件ニ於ケル邦人被害ハ負傷者十數名、罹災者五百餘名、被害推定額三百九十萬「ソール」（里馬市附近ノ在留邦

人全投資額五千萬「ソール」ノ約七、四「パーセント」ニ達シ特ニ右暴動ガ小商工業者等資力ニ乏シキ在留邦人ヲ目的トシテ行ハレタル爲其ノ被害ハ相當深酷ナルモノアリタリ

我方ニ於テハ今回暴動ガ革命等非常ノ際突發セル事件ニ非ズシテ平常狀態ニ於ケル計畫的暴動ニシテ而モ邦人ノミヲ目的トセル點ニ付重大性ヲ認メ且暴動ノ鎮壓ニ關シ祕露國政府ノ執レル措置ガ極メテ不徹底ニシテ二日ニ亘リ殆ンド無警察狀態ノ儘放任シ軍隊ヲ出動セシメテ漸ク暴民ヲ取り鎮ムルコトヲ得タルハ法治國タル祕露國政府ノ責任重大ナリトシ嚴重抗議スルト共ニ祕露國政府ノ正式陳謝、責任者ノ處罰、在留邦人ノ生命財産ニ對スル保障及損害賠償ノ至急支拂ヲ求メタル處祕露國政府ハ前二者ヲ實行シ且ツ在留民將來ノ安全保障ト共ニ賠償金ノ支拂ヲ約シ右ノ爲三名ヨリ（成力）或ル被害調整委員會ヲ任命シ我方提出ニ係ル被害見積高ノ申告ニ基キ被害ノ調査及査定ニ當ラシムルコトナレリ然ルニ其ノ後右調査委員會ノ事務ハ遅々トシテ進捗セズ我方ハ出先ヲシテ間斷ナク祕露國政府ニ督促セシムルト共ニ在京祕露公使ニ對シテモ屢次交渉ヲ重ネタル結果本年三月

二人リ祕露國政府ヨリ賠償金ノ前拂トシテ不取敢十萬「ソール」交付ノコトニ決定セル旨通知アリタルガ更ニ五月中先方大藏大臣ヨリ被害調査委員會ハ被害件數六百件中漸ク二百三十件ノ査定ヲ了セルニ過キス本件事務ノ複雜性等ニ毛顧ミ全部終了迄ニハ猶數年ヲ要スべく又例ハ早期終了スルモ査定額ニ對スル議會ノ承認ヲ得ルコトハ現下ノ政情ニ於テハ頗ル困難ナルベキヲ以テ此ノ際委員會ノ調査ヲ打ち切り祕露國ノ財政窮乏ノ現狀ニモ鑑ミ一部ヲ政府ノ取扱ヒ得ル物資ヲ以テ支拂フコトトシ百萬「ソール」程度ヲ一括我方ニ交付スルコトニ依リ本件ヲ解決シ度キ旨申出タリ

仍テ我方トシテハ此ノ儘荏苒推移スルトキハ虻蜂取ラズトナル惧アルノミナラズ査定額ヲ議會ニテ討議スルトキハ議論百出問題ノ紛糾ヲ來ス可能性大ニシテ旁々此ノ際先方申出ノ政治的解決ヲ容ルル方得策ナリトノ見地ヨリ主義上之ヲ受諾シ金額ニ付テハ被害申告額ヲ考慮シテ二百萬「ソール」ヲ要求シ、又物資モ成ル可ク現地ニ於テ處分シ得ル品物ヲ希望セルガ其ノ後右金額ニ付種々折衝ヲ重ネタル結果先方ヨリ最後案トシテ

現 金 三五萬「ソール」

羊毛 六〇萬「ソール」

工業鹽 二五萬「ソール」

砂糖 二〇萬「ソール」

計 一四〇萬「ソール」

ヲ支拂ヒ本件解決方提案アリ之レ以上ノ増額及物資ノ變更ハ祕露國政府トシテ絶對ニ不能ナル旨申出アリ我方ノ交渉繼續ヲ回避スルガ如キ態度ニ出ツルニ至リタルヲ以テ我方トシテモ事情已ムヲ得ザルモノト認メ右ニテ妥結スルコトトセリ尤モ我方ニ於テハ當初ヨリ受取物資ハ現地ニテ處分シ得ルモノタルベキ建前ヲ持シ萬已ムヲ得ザレバ鑛物棉花等我方ノ必需物資ニ限ルベキ主張シ特ニ先方ノ提供セントスル前記物資中工業鹽ノ如キハ積取及船腹ノ關係上不適當ナルヲ以テ之ヲ他ノ品物ニ振替方交渉セルモ成功セズ物資ニ付我方ノ要求ヲ餘リニ固執スルトキハ結局本件交渉ヲ破綻ニ導ク惧多分ニアリタルヲ以テ一應前記先方申出ノ物資ヲ受諾スルコトトセル次第ナリ又前記現金中ニハ三月中支拂ヲ約セル十萬「ソール」ヲ含ミ(我方ニ於テハ之ヲ別口トシ交渉セルモ承諾セス)右金額ハ七月十八日之ヲ受領セリ

仍テ我方ニ於テハ八月十九日附公文ヲ以テ前記百四十萬「ソール」ノ支拂ヲ以テ賠償問題ヲ終結セシメントスル用意アルコトヲ祕露國政府ニ正式ニ通告シ右ニ對シ祕露國政府ヨリ九月十日附ヲ以テ右ノ支拂ヲ受諾セル旨竝ニ其ノ結果トシテ大藏省ヨリ支拂ニ關スル大統領決定發給サレタル旨回答越シ茲ニ一年數ヶ月ニ亘リ揉ミニ揉ンダル本件交渉ハ一段落ヲ告ゲタリ

我方ニ於テハ直ニ先方政府ト本件賠償支拂ニ關スル細目協議ニ入ルコトトセルガ岩井商店、太平洋貿易會社及淺野物産會社現地出張員ヨリ我出先ニ對シ夫々賠償物資タル工業鹽、羊毛及砂糖ノ引受ケ方申出アリタルヲ以テ之ヲ承諾シ目下右三社ニ於テ先方業者トノ間ニ商談ヲ進メ居レリ

(以下省略)

1159

昭和16年11月14日

東郷外務大臣より  
在ベルー坂本公使宛(電報)

ベルー暴動事件の損害賠償支払い完了に関する外務当局談発表について

別電

昭和十六年十一月十四日發東郷外務大臣より

在ベルー坂本公使宛第一八七号

右当局談

本省 11月14日後8時発

第一八六號

我方臨時議會ノ關係モアリ賠償問題ニ關シ十四日午後五時  
別電第一八七號ノ通り外務當局談ヲ發表セリ

（別電）

本省 11月14日後9時発

第一八七號

客年五月ノ暴動事件ニ關シテハ曩ニ祕露政府ハ正式陳謝、  
犯人ノ處罰、今後再發防止ノ保障及ヒ賠償金ノ支拂ヲ約諾  
セルカ其後帝國政府ハ損害賠償問題ニ關シ銳意交渉中ナリ  
シ處祕露政府ハ應急救護ヲ要スル被害邦人ノ爲不取敢十萬  
「ソール」ノ支拂ヲナセルモ被害調査委員會ノ事務ノ進行  
捗々シカラサリシニ鑑ミ本年五月本件急速解決ノ爲事務的  
調査ヲ打切り政治的解決ヲ計リ度キ旨申出タリ我方トシテ  
ハ今次歐洲戰爭ニ基ク祕露經濟事情ノ變動竝ニ事件勃發直  
後ノ祕露大震災等ニ鑑ミ日祕兩國間友好關係敦厚化ノ大局  
的見地ヨリ政治的解決ノ申出ヲ容ルルコトトシ賠償金額ニ

付種々折衝ヲ重ネタル結果祕露貨合計百四十萬「ソール」  
（邦貨約百萬圓）ヲ我方ニ支拂ハシムルコトニ依リ本件ヲ解  
決スルコトニ妥結シ其ノ一部ヲ祕露國産品ヲ以テ現物支拂  
ヲナスコトヲ容認シ公文ヲ以テ右交渉ノ結果ヲ相互ニ確認  
セリ

尙祕露政府ハ目下開會中ノ同國議會ニ對シ本件賠償ニ關ス  
ル豫算ヲ提出中ナリシ處右ハ客年二十九日同國下院ヲ通過  
シ次テ本月十一日上院ノ協贊ヲ經タルヲ以テ近ク我方ニ對  
シ全部ノ賠償支拂實施ヲ見ル筈ナリ

本件賠償額ハ在留民ノ被害程度及範圍ニ比シ充分ニ非ラサ  
ルモ祕露政府カ客年ノ不祥事件ニ對シ法治國政府トシテ其  
ノ責任ヲ感シ種々困難ナル國內事情アリタルニ拘ラス賠償  
金支拂ノ約諾ヲ果サントノ誠意ヲ披瀝シタルハ帝國政府ノ  
諒トスル所ニシテ右支拂實施ノ曉ハ本件暴動ノ爲財産ヲ喪  
失シ苦境ニ沈淪シ居タル被害邦人ノ事業復興ニ資スル所ア  
ルヘク帝國政府ハ本件解決ニ依リ日祕兩國ノ關係カ再ヒ明  
朗化サレ且ツ傳統的の友好關係カ一層鞏固ヲ加フルニ至ルヘ  
キコトヲ欣快トスルモノナリ